

施工・メンテナンス

P433～465

施工時の環境

施工の時に注意しなければならないことの一つに温度、湿度、通気、立地といった施工環境があります。これらの環境がもたらす材料の変化、環境に合わせた施工術をよく考慮した上で適切に施工することが大切です。

1.温度について

施工現場の温度が高いとき	●材料はやわらかくなり、下地になじみやすくなる。 ●接着剤は、粘度が低くなり、伸びやすく塗布しやすくなる。暑い夏などは、接着剤の乾燥時間が極端に短くなる。
施工現場の温度が低いとき	●材料は硬くなり、下地になじみにくくなる。 ●接着剤の粘度が高くなり、くし目の通りが悪くなり、伸びにくくなる。そのため塗布量が増えて乾燥しにくくなる。 →硬化時間が長くなる。塗りムラに注意。
温度変化があるとき	●朝晩で気温の変化があるときや冷暖房設備による室温変化、窓の大きな部屋で直射日光が照り付け、日中と夕方の室温変化があるときは次のことに注意する。 →材料は高温になると伸びて大きくなり、低温になると縮んで小さくなる。 - これは、寸法がくるって目地ずれ・突き上げの原因となる。

温度と施工
●施工はできるだけ10℃以上で行うことが望ましい 工期の問題、設備などが整わないなどの問題もあるが、できるだけ施工環境温度は10℃以上にすること。藤タイルなど天然素材は、温度や湿気の影響を受けやすいので施工環境温度は、15℃以上が望ましい。
●急激な温度変化は避ける 材料は急激な温度変化により伸びたり縮んだりし、寸法をくわせる。また接着剤は低温では硬化が遅れ、温度変化したときの材料の伸びを抑えられるだけの接着力が得られないので、膨れや突き上げの原因になる。したがってできるだけ施工中と養生期間中の温度を合わせて施工する。また直射日光や冷暖房による施工中の急激な温度変化にも注意する。特に店舗など窓の大きな場所は直射日光による輻射熱で日中と朝晩の温度変化が激しいので、カーテンやブラインドなどで遮光するなどして直射日光が床面に当たらないようにする。
●使用する床材を施工する場所の温度になじませる 施工する場所の温度が適当であっても、材料自体が冷えきって縮んでいたり、逆に温まって伸びきっていたりすると、施工中や養生中に寸法変化を起こし膨れや突き上げの原因になる。そのため材料を施工前24時間は仮敷きをして巻き癖を取ったり、室温に馴染ませておくことが必要となる。
●夏の暑いときには接着剤の取り扱いに注意する 温度が高くなると接着剤の硬化が速くなる。夏の高温下では極端に接着剤の硬化が速まり、オープンタイムや貼り付け可能時間が大変短くなるので、1回の接着剤の塗布面積には十分に注意する。エポキシ系の接着剤は2液の化学反応により硬化するが、高温下では極端に硬化が速くなり貼り付け可能時間が短くなるので、オープンタイム、貼り付け、圧着の時間には十分に配慮したうえで塗布面積を決定する必要がある。また2液反応型接着剤を容器に混練したまま放置しておくと、固まって使えなくなってしまうので使うだけの量を混練する。

2.湿度について

湿度が高いとき	エマルジョン形・ラテックス形接着剤は、水分が蒸発することによって硬化、接着するので空気中の湿気が多いと蒸発を遅らせ、硬化が遅くなる。ウレタン樹脂系接着剤は、逆に水分や空気中の湿気と反応することによって硬化するので湿気が多ければ硬化が速まる。
湿度が低いとき	湿度が高いときとは逆にエマルジョン形・ラテックス形接着剤は硬化が速くなり、ウレタン樹脂系は遅くなる。
下地や空気中の高い湿気には注意する	コンクリート下地などからの高い湿気や空気中の高い湿度には、施工の際に注意が必要である。エマルジョン形・ラテックス形の接着剤は、湿気の影響を受け硬化が遅れる。接着硬化が遅れると、材料の環境変化による寸法変化を抑えきれず、浮き・膨れ・突き上げの原因となる。また施工中に夕立が降ったりした場合、空気中の湿気が増えると床面に塗布してオープンタイムを取っている接着剤の表面に水滴がつき、硬化を遅らせ強度を弱くする。これもまた膨れや突き上げの原因になる。

3.通気について

溶剤形の接着剤を使っているときは通気をし空気の入れ替えをするが、あまりにも風通しがいいと接着剤の乾燥が速くなり、オープンタイム、貼り付け可能時間等が短くなるので注意が必要。塗布量の加減、塗布面積にも加減が必要となる。特にエポキシ樹脂系、ウレタン樹脂系、ビニル共重合樹脂系などの溶剤形接着剤は、溶剤が入っているため風による揮発が早く、通気、通風がいいところでは、極端に乾燥が速くなるので試し塗りなどで乾燥状態を調べて施工を行う。
--

4.立地環境について

●寒冷地 寒冷地における低温は、接着剤の硬化の遅れや材料が硬くなる、縮むなどの寸法変化を起こす。また暖房使用時と使用していないときの温度差が激しいので膨れ・突き上げを招きやすい。施工時の室温を施工環境温度に高めることは勿論、できるだけ材料を施工時及びその後の養生時の温度になじませることが大切である。材料は施工する24時間前には施工場所に搬入し、施工環境温度、またできればその後の養生環境温度になじませておくことが大切である。
●埋立地 通常、埋立地は、普通の土地と比較して土中湿気が数倍高く、常に空気中に高い湿気が上昇している。下地を通して湿気が上がらないように、下地の下にポリエチレンなどの防湿フィルムを敷く必要がある。実際に水田を20年前に埋め立てたという土地でも、接着剤の無力化が起こりクレームになった例もある。
●海・川・池 実際に300～400m離れた池の影響を受けたという例があるほど水場は影響する。海・川・池の近くは、空気中は勿論、土中を伝って下地への水分の影響がある。特に土中を伝ってモルタルから上がってくる水分はアルカリ性であり、ビニル共重合溶剤系の接着剤と加水分解と呼ばれる化学反応を起こし、それらの接着剤を無力化する。またコンクリート下地を通して運ばれる強アルカリ性の水分は、ビニル系床材に含まれる成分と化学反応を起こし、耐久性に悪影響を及ぼし製品の劣化に繋がることもある。
●地下室 長く使用されず放置されていたり、空調施設の施されていない地下室の空気は冷えており、その真上の部屋の床下地に影響を及ぼすことが多い。地下室と階上の部屋とで室内の温度差があると結露が発生し、下地を通して湿気が上昇し床材の突き上げや膨れなどの原因になる。この場合も下地の下に防湿フィルムを施す必要がある。

下地の確認 STEP1 吸水性と下地の種類

下地の吸水性は接着剤の塗布量・乾燥・接着効力に大きく影響し、接着剤のオープンタイムや選定等仕上げ材の施工方法に関わります。適切な施工には、下地の種類・特徴に応じた工法の選択と対処が必要です。

下地の種類	構成図	特徴・注意点
吸水性あり	モルタル 	セメントモルタルを金こて仕上げた下地。表面が滑らかで吸水性が良く、床材施工に適している。 *モルタル下のコンクリートの乾燥不足による湿気が、接着剤の効力に影響することがある。
	セルフレベリング床 	石膏又はセメント系の自然流動材を不陸のあるコンクリート等床面に流して、コテ押えなし(セルフレベリング:自己水平)で仕上げた下地。 *石膏系は強度が低く耐水性が無いため、塩ビ系床材には不適。セメント系はコンクリートやモルタルに比して厚みがないため弱い。樹脂が水分を閉じ込めるため、乾燥が極端に遅い。コンクリートに水分上昇を防ぐためのプライマーを塗るが、その乾燥状況により気泡が発生し、床材施工後に膨れの原因となる。
	土間コンクリート 	地面に直接接した状態でコンクリート仕上げた下地。 *吸水性の良いコンクリートが地面の湿気を床材に伝えることで、接着剤の効力に影響することがある。地面とコンクリートの間にポリエチレンフィルムを敷き、防水層を設ける場合が多い。
	鉄板上のコンクリート 	デッキプレート等の鉄板の上にコンクリートを打設し、金こて仕上かモルタル仕上げをした下地。 *特に鉄板(デッキプレート)下地とコンクリートの組合せは鉄板が水分を逃がさず、コンクリート表面からのみ乾燥する。このため、通常の約2倍以上の乾燥期間が必要となる。更に、鉄板下地と軽量コンクリートの場合は約5倍の乾燥時間を要する。
吸水性少ない	合板(コンパネ等) 	ベニヤを積層し、接着剤で張合せて1枚の板にした材料(合板)を用いた下地。 コンパネ:コンクリートパネルの略。コンクリート打設の型枠に使用される厚さが12mmの耐水合板「ラワンベニヤ」。 *他下地に比して剛性が低く、段差・隙間・たわみによる目地の収縮・突き上げにつながり易い。下地接合部の段差・隙間・釘頭は、床材施工後の不陸の原因となる。防腐剤や防蟻剤を使用しており、床材を汚す原因ともなる。
	モノリシック仕上げ 	「コンクリート一発仕上げ」と呼ばれる下地。乾燥が比較的早く、強度も出る。 *しばしば平滑性に欠け、コンクリートの目の粗さによるコテムラの発生、表面強度のばらつきがある。

下地の確認 STEP2 下地の乾燥状態の判断方法

■水分計を使用する方法

水分計の設置面が平坦でゴミ・埃がなく、通風のない場所を選んで下地水分の測定を行う。

■ポリエチレンフィルムを利用する方法

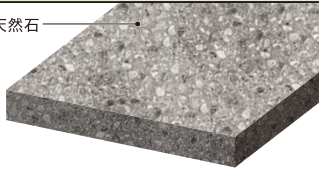
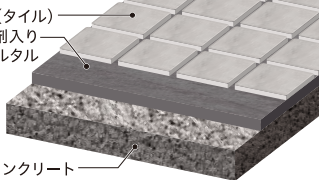
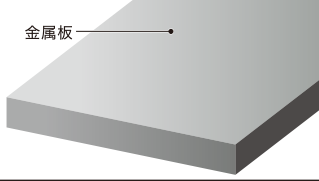
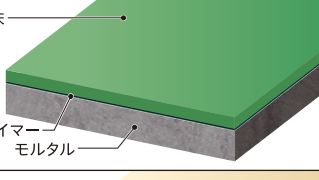
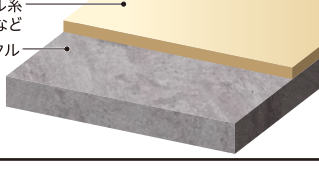
約1m角のポリエチレンフィルム(ゴミ袋等)を下地に広げ、空気が逃げないように四方をガムテープで張り、24時間放置する。その後、フィルム内側に付いた水滴や下地の変色状態を観察し判断する。

■バーナーを利用する方法

バーナー(トーチランプ)を用い下地表面を炙り、水滴の有無や変色状態を観察し判断する。

水分計*			水分計以外での確認方法		施工方法の目安
グレード	選択 D.MODE	従来の水分指標	ポリエチレンフィルム	バーナー	
I	440未満	8%以下	24時間後変化なし	下地表面に変化なし	一般工法
IIa	440以上620未満	8%~10%	24時間後黒ずみ(輪郭不明瞭)	下地表面が黒ずむ	耐湿工法
IIb	620以上	10%以上	24時間後に変色結露が見られる	下地表面に水滴が浮く	施工不可

*使用水分計:株式会社ケット科学研究所 高周波静電容量式水分計「HI-520-2」D.MODE選択による

下地の種類	構成図	特徴・注意点
吸水性なし	石材系 (大理石など) 	＊剛性が強く、僅かな段差・隙間・浮きを床材が拾ってしまう。破損・損傷部は下地補修剤などで平滑に仕上げる必要がある。
	磁器(タイル) 	＊表面の密閉性が高く、吸水性が全くない。粒子が球状のため、接着剤が付き難く施工できない。
	金属系 	＊ビス頭・溶接部等の凹凸、錆と油汚れに注意が必要。溶剤形の防錆剤がウレタン・エポキシ樹脂系溶剤形接着剤と反応し、防錆効果がなくなったり、接着効果がなくなる場合がある。
	塗り床 	コンクリートの上にウレタン塗料を塗った下地。 ＊継ぎ目がないため、平滑であれば施工しやすい。一方、さざ波仕上げなどは平滑性に欠けたり凹凸があるため注意が必要。剥離、クラックに対してはパテなどで補修をする。
	重ね貼り 	既設床材を剥がさずに施工する場合の総称。 ＊硬さ・不陸・目地部分の平滑性、ワックス付着に注意は必要。

■吸水性のある下地

エマルション形・ラテックス形・溶剤形等、液体の蒸発によって固化する接着剤と馴染みがよく乾燥しやすい。
 吸水性があるため、その下地(基礎)の影響も受けやすい。例えばモルタルはその下のコンクリートの湿気を吸収し、床仕上げ材に影響を与えることがある。

■吸水性の少ない下地

接着剤に含まれる液体が蒸発し難いため、エマルション形・ラテックス形・溶剤形は適さない。
 乾燥固化が遅いため、接着不良の原因となりやすい。反応型接着剤を用いるか、接着剤の塗布量を少なくする必要がある。

■吸水性のない下地

仕上げ材を通してしか接着剤に含まれる液体の蒸発がなく、接着剤の乾燥が極めて遅い。通常、反応型接着剤を用い、塗布量を少なめにし、オープンタイムにも注意を要する。床材の変質、目地からの接着剤の滲み出しにも注意する必要がある。

■株式会社ケット科学研究所製「コンクリート、モルタル水分計 HI-520-2」による水分測定方法(表面から40mm程度まで)

●測定手順

- ①測定対象床下地から、測定対象箇所を適宜選定する。
- ②水分計の各ダイヤルを以下の通りセットする。
Dモード
(厚さ: 40mm程度、温度: オート設定)
- ③水分計を測定対象箇所の床下地表面に置き、表示値を読み取る。
測定は水分計を置く位置を適宜ずらしながら数回行い、平均的な表示値を求めることとする。

●測定結果の評価: 測定表示値を左記表グレードで判断し施工方法の判定を行う。

測定方式	高周波容量式(20MHz)	HI-520-2 
測定対象・範囲	コンクリート	
	モルタル	
	ALC	
	人工軽量骨材コンクリート	
	石膏ボード	
表示方法	ケイ酸カルシウム板	
	Dモード	
	Sモード	
	電池 9V(006P アルカリ) ×1	
	消費電力 350mW	
寸法・質量	72(W) × 146(D) × 118(H) mm, 0.39kg	
付属品	ソフトケース、電池、取扱説明書	

床暖房への施工

1. 床仕上げ材施工における床暖房の問題点

床暖房下地への施工は、床暖房機材と床仕上げ材が多様化・多機能化しており、床暖房による温度変化が下地にさまざまな変化をもたらすため、困難な施工の一つといえます。温度変化が引き起こす下地の伸縮、床仕上げ材の伸縮、下地の水分の急激な上昇、伸縮のため発生するコンクリート下地のクラックなどさまざまな問題が生じます。また床暖房機材によっては、場所により温度のバラツキの激しいものもあります。そのため事前の打ち合わせは入念に行う必要があります。下記のような問題が発生する可能性を事前にご理解のうえ施工を行ってください。

床暖房の基本的な問題

●加熱による下地への影響

加熱をすると下地から湿気が上昇しやすくなります。加熱による急激かつ多量の湿気の上昇は接着剤と下地との間に水分の膜をつくり、接着効力を無力化します。また下地に亀裂がある場合、加熱するとその部分が伸縮し、床材を押し上げることがあります。

●加熱による床材への影響

床暖房の加熱により床材自体が伸縮し、突き上げや膨れ、剥がれの原因になります。また、電熱線を熱源とした床暖房では、熱線部分の熱が集中し、筋状に床材が変色を起こすことがあります。また、保温、蓄熱性の高い敷物等を使用され、敷物等と床材の間に蓄熱した高温状態が長時間続くと床材が変色を起こすことがあります。

●加熱による接着剤への影響

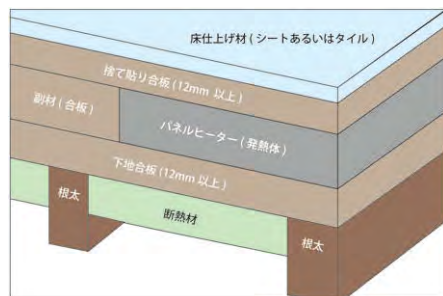
十分な接着剤の硬化が得られていない場合、加熱により接着剤の効力が損なわれ、突き上げや膨れ、剥がれの原因になります。

●暖房効率への影響

厚みのある床材、発泡層のある床材を敷設すると、暖房効率が低下する可能性があります。

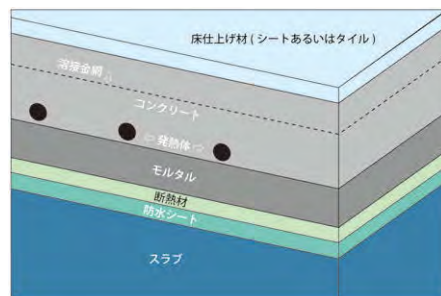
2. パネル型床暖房と埋設型床暖房

●パネル型床暖房



パネル型床暖房システムの問題点は、部材と部材の隙間や段差が床仕上げ材に影響を与えることです。これを防ぐために12mm合板などを捨て貼りします。一般的にはこの工事は建設工事であり、内装工事には入りません。捨て貼り合板自体に段差があったり、目地が床材に影響を与えそうなときは、サンダーなどで平滑な面にしてから施工してください。

●埋設型床暖房



埋設型床暖房システムの問題点は、通湯パイプから発生する熱がコンクリート下地にさまざまな変化をもたらすことです。急激な温度変化により、下地の水分が一気に上昇して床材や接着剤に影響を与えたり、下地自体にクラックが発生して床材に膨れなどのクレームを引き起こします。

埋設型床暖房の下地に対する事前対処

- 下地水分グレードが「I」であることを確認し、コンクリート乾燥の促進に床暖房試運転を行ってください。その際は床暖房使用時温度+5℃で繰り返し行い、クラックを十分に発生させ、クラックの不具合をチェックし補修します。
- 1mm未満のヘアークラックは段差をサンディングし平滑にします。1mm以上のクラックはクラックに沿って溝切りを行い、クラック補修材などを充填し処理を施してください。
- 下地の状態が悪く、床材の直貼りが困難と判断した場合は、厚み12mm以上の合板を捨て貼りしてください。

3. 床材の施工方法

●全面接着工法

エポキシ樹脂系接着剤またはウレタン樹脂系接着剤を下地全面に塗布して施工するもっとも基本的な工法です。下地の伸縮による影響を受けやすいですが、重歩行エリアや移動荷重がかかる場所には適しています。

●置き敷き工法

熱で寸法変化の少ない床材（カーペットタイル等）をピールアップタイプの接着剤で施工する工法です。（軽歩行エリア）

●額縁接着工法

ビニル床シートの施工において、周囲をエポキシ樹脂系接着剤またはウレタン樹脂系接着剤で強接着して、内側にアクリル樹脂系エマルジョン形接着剤を使用する方法です。下地に発生したクラックが多い場合や補修困難な場合に施し、下地の追従性を求めるとともに問題が発生した場合に補修しやすいように考慮された施工法です。この工法でおさめる際の条件は施工時に通熱することです。

一方、耐久性には劣るため、ホール・廊下といった重歩行エリアやキャスターなどの移動荷重がかかる場所では、この工法は避けてください。

4. 施工時の通熱

- 床暖房機材メーカーの施工マニュアルに通熱の指示がある場合はそれに従ってください。
- 施工時において、気温が20℃以上の場合には通熱しないのが一般的です。逆に気温が20℃未満の場合は2日前から通熱し、床材は24時間以上の仮敷きを行ってください。

5. 養生

- 通熱して施工が終了した場合、接着剤が硬化するまでの48時間は通熱したまま養生してください。

床暖房への施工

6. その他の注意点

- 非床暖房取り付け部の伸縮目地とクラック誘発目地の上は、床材の仕上げ施工はできません。エキスパンション金具処理及びコーキング処理をすることが必要となります。

7. 各種床仕上げ材特有の施工注意点

1) ビニル床シート

パネル型床暖房の注意点

- 捨て貼りをした合板とシートのジョイントが重なり合わないようにします。
- ジョイント部は液溶接工法ではなく熱溶接工法とし、溶接は48時間以上養生をした後、シートがよく接着されているのを確認してから常温で専用溶接棒を使い行ってください。

埋設型床暖房の注意点

- ジョイント部は液溶接工法ではなく熱溶接工法とし、溶接は48時間以上養生をした後、シートがよく接着されているのを確認してから常温で専用溶接棒を使い行ってください。

2) カーペットタイル・ビニル床タイル

パネル型床暖房・埋設型床暖房の注意点

- 施工24時間前から重ならないように仮敷きし、現場の室温になじませてください。
- 低温時はゆるめ、高温時はきつめに施工してください。後からの床材の寸法収縮を考慮して施工します。

床暖房施工可否表

種 類	商品名	可否	工 法
ビニル床シート	ナーシングフロア、ストロング、SKフロア、メディウォーク エスリューム（プレーン・マーブル・ミスト・ウッドII・ファイバー ルーミー・ジャットバウッド・ウィーブ）	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
機能性ビニル床シート	耐薬品性+耐動荷重性エスリューム、エスリューム・プラス 消臭SKフロア、消臭レストリューム	×（※1）	
防滑性ビニル床シート	ノンスキッド、オフフロア、プレーンエンボス ニューセーフティ	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
単層ビニル床シート	メガリット、グラニット、オデオンPUR、メディントーン	○（※2）	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
その他床シート	ココフロア（シート）	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
	フロテックスシート	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
	アンダーレイ	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
クッションフロア	1.8mm厚	×	
	店舗用フロア、3.5mm厚	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
	遮音フロア	×	
	消臭快適フロア	×（※1）	
パンチカーペット	SペットECOII	×	
複層ビニル床タイル	2.5mm厚一般タイル、2mm厚タイル	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
	ラウンドエッジ	×	—
	タバック、ファインメタル	×	—
置き敷きビニル床タイル	OT、リフォルタ	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
コンポジションタイル	コンポジション	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
その他タイル	ルームプラス	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
	ココフロア（タイル）	○	全面接着工法（EP-300、WPX、WG）
	たたみタイル、とうタイル	×（※1）	
コルクタイル	KR-4273	○（※3）	全面接着工法（SD）
	KR-4271、4272、4274	×	
カーペットタイル	NT/DTシリーズ（NT-350S、NT-700S、輸入品除く） グラフィカシリーズ、スタイルキットシリーズ、ファミタシリーズ アンダーレイ+カーペットタイル（上記に準ずる）	○	軽歩行：置き敷き工法（GT、GTS） 中・重歩行：全面接着 （EP-300、WPX、WG）
	NT-350S、NT-700S、輸入品（NT-760P、NT-1200、NT-440 NT-920、NT-140、NT-1150、NT-1050、NT-1100、DT-5050 NT-840H、NT-8000、NT-8100、DT-6200、DT-6300 DT-6350、DT-6400、DT-6600、DT-6650、DT-6700 DT-7200、DT-8500、DT-8850）	×	—
ロールカーペット	全品種（カンガーバック品除く）	○（※4）	全面接着工法（EP-300、WPX、WG） グリッパー工法
	カンガーバック品（サンシンフォニー、サンコーラス）	×	—
ウッドフロア	ウッドフロアL-40・L-45シリーズ	○	全面接着工法（WF）

※1 機能性商品は性能が低下する場合があります。

※2 寸法安定性を担保するガラス繊維層を持たない単層シートでは、加熱による後伸びを避けることができません。耐熱性の接着剤を使用し、しっかりと圧着してください。

※3 接着剤はSD（BB-581）を使用してください。コルクタイルは縮む性質がありますのでしっかりと鉄ローラーで圧着してください。

※4 タフテッドカーペットは裏面にジュート（麻）を使用しているため、特有の臭いがあります。臭いが気になる方はご使用をお避けください。

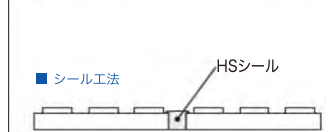
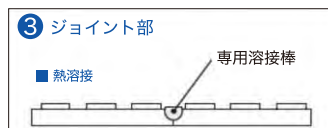
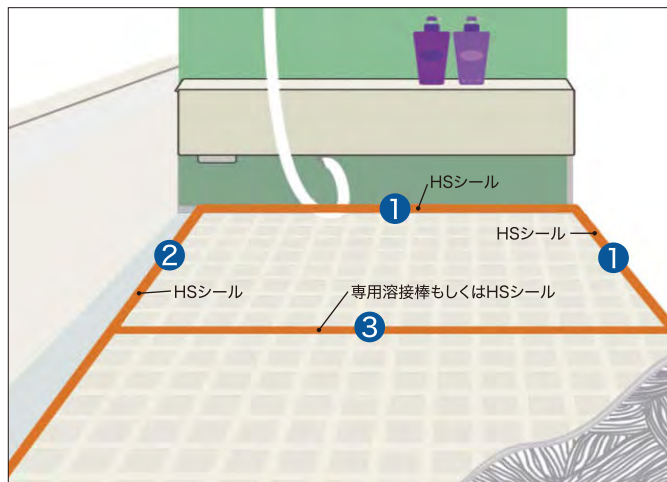
オフフロア施工説明

■基本手順



■収まり図

壁際や側溝の端部やジョイント部の全景です。



■副資材 シール剤対照表

端部処理例



排水口処理例 ※円形目皿の場合



シート／シール剤品番対照表

商品名	シート品番	HSシール品番
オフフロア	OH-4583	BB-574
	OH-4584	BB-574
	OH-4585	BB-574
	OH-4586	BB-574
	OH-4587	BB-563
プレーンエンボス (浴室使用可能タイプ)	PM-4588	BB-574
	PM-4589	BB-574
	PM-4590	BB-563

※上記は床材・各副資材の組み合わせ例であり、完全には色が合いませんのでお含みください。

1.環境・下地の確認と補修方法

オフフロアを施工する下地としての条件に適しているかどうかをチェックします。スムーズに水掃けがなされるよう、なだらかな勾配のある下地作りをしてください。

■モルタル・コンクリート下地

下地湿気は、高周波水分計『HI-520-2』D.MODE440未満(グレードI)を条件とします。
下地の不陸や凸凹はケレンしたりフロアセメント(BB-492・493)で補修します。

■セラミックタイル下地

下地に浮きや割れがないかを打診などで確認します。
目地や不陸、割れなどはフロアセメント(BB-492・493)などで埋めて全体が平滑になるように仕上げます。

■FRP下地

FRP下地は補修材や接着剤の密着性に劣る場合があります。全面をサンドペーパーなどで荒らして、FRP用のパテで全面を平滑になるように仕上げます。

下地補修により膨れや凹みができると、水掃け勾配が取れなくなり水掃けが悪くなりますので、必ず平滑でスムーズな水掃けができる勾配を確保してください。

2.材料納入・仮敷き

現場の環境になじませ、運搬時の巻き癖、伸縮などを取り除くために必ず仮敷きしてください。特に低温時や寒冷地の場合、シートが硬くなっているため十分な仮敷き時間をとります。

3.下地の清掃

床の汚れ・ゴミ・ちりなどは接着剤の効力を弱めクレームの原因となりますので、清掃の段階で確実に取り除いてください。

4.割付け・粗切り

施工後の水の流れを妨げないようできるだけ目地が少なくなるように割付けし、長めにカットしておきます。

5.シートのカット

壁際に位置する面や排水口などは3～5mm程度シールしろを空けて、巾定規やバースクレイパーなどを用いてカットします。

6.ジョイントの裁断

専用溶接棒で継ぎ目処理をする場合は、落とし込み工法で処理します。スクレイパーなどでけがいてからカットしてください。

※シール工法で継ぎ目処理をする場合はシールしろを3～5mm透かしてシートを施工してください。

7.接着剤の塗布

EP-300(BB-575・584)を専用クシ目を使用して全面に塗布します。
※接着剤はA液・B液それぞれを十分攪拌した上でバケツなどに入れて十分に攪拌してください(床面で混ぜ合わせると接着不良の原因になります)。

8.シートの貼付/圧着/エア抜き

エアを巻き込んだり、たるみが出ないように、ハンドローラーなどで中央から空気を追い出すようにして貼付けます。
空気だまりは下地の湿気などの影響を受けて膨れの原因になりやすいため、ちいさなものでも見逃さず必ず取り除いてください。
施工後は目地部分を含め、シート全面をハンドローラーなどで十分に圧着します。

9-1.継ぎ目処理(熱溶接工法)

■オフフロア専用溶接棒を使用します。

①溝切り

シートの貼り付け・圧着の後、接着剤が完全に硬化してから、継ぎ目部分をU字もしくはV字に溝切りします。

※溝の深さは、オフフロアの厚みに対して2/3程度としてください。

※ジョイント箇所は溶接後の水掃けを考慮しオフフロアのエンボスの一番低い目地部分でジョイントしてください。

②熱風溶接

専用溶接機ライスターを使用して目地部分を溶接します。

※熱風の温度が高すぎるとジョイント周辺のシート表面が溶解しツヤが出る場合がありますので十分に注意してください。

③余剰部分カット

溶接棒が十分に固まった状態でスパトラナイフなどを用いて余剰分をカットします。

※溶接棒が固まる前にカットすると後に溶接棒がヤセ、凹みとなる場合がありますので十分に注意してください。

9-2.継ぎ目処理(シーリング工法)

■シーリング剤(HSシール)を使用します。

①シート施工時にジョイント部を3～5mm空けておきます

※ジョイント箇所は溶接後の水掃けを考慮しオフフロアのエンボスの一番低い目地部分でジョイントしてください。

②シーリング部分の確認・清掃

シーリングを施す面が、ゴミやホコリなどで汚れていないかを確認し、汚れている場合は清掃してください。

また湿気のある場合は十分に乾燥させてから作業してください。

③マスキング処理

仕上がり美しくするために、シーリング部分にマスキングテープを貼りマスキング処理をしてください。

④充填と仕上げ

気泡を取り込まないようにシーリング面に均一になるようにHSシールを充填し、充填後は平らになるようにヘラで整えてください。

⑤マスキングテープの除去・養生

表面を仕上げた後、マスキングテープを取り除き、24時間養生します。その後入浴は可能ですが、シールが完全に硬化するまでには2～3日かかりますのでシール部分の清掃は控えてください。

10.端部・排水口処理(シーリング工法)

■シーリング剤(HSシール)を使用します。

①シーリング部分の確認・清掃

シーリングを施す面が、ゴミやホコリなどで汚れていないかを確認し、汚れている場合は清掃してください。

また湿気のある場合は十分に乾燥させてから作業してください。

②マスキング処理

仕上がり美しくするために、シーリング部分にマスキングテープを貼りマスキング処理をしてください。

③充填と仕上げ

気泡を取り込まないようにシーリング面に均一になるようにHSシールを充填し、充填後は平らになるようにヘラで整えてください。

④マスキングテープの除去・養生

表面を仕上げた後、マスキングテープを取り除き、24時間養生します。その後入浴は可能ですが、シールが完全に硬化するまでには2～3日かかりますのでシール部分の清掃は控えてください。

11.養生

施工完了後、床材の浮き、膨れ、剥がれ、突き上げなどの不備や接着剤による汚れがないかを確認します。

施工後の汚れや破損を防止するため、必要に応じて養生シートなどで保護してください。

また、シール剤が完全に硬化するまではシール部分を踏んだり、ブラシなどでの清掃はお避けください。

日常のお手入れ

①浴室を水洗い

床・浴槽を熱いお湯で洗い流した後、スポンジなどで水洗いをしながら冷たい水で洗い流します。

水洗いでも浴室内の温度を下げる事で熱気がこもらないようにします。

②浴室洗剤を使ってブラッシング

浴室には人の脂肪分や石鹸カス、ホコリなど様々な汚れが付着します。浴室用洗剤を使用して、デッキブラシ・浴室用ブラシなどでかきだすようにして清掃します。

③換気

浴室は多量の水蒸気が発生します。

換気扇を回す、水分をふき取るなどして湿気を追い出します。

④日常メンテナンスのポイント

乾燥して汚れがこびりついてしまう前に、汚れを落とす事がオフフロアをきれいに長く使って頂くコツです。

適正な日常清掃を心がけてください。

使用上のご注意

①ゴム汚染について

浴室用車椅子の車輪やキャスター、浴室用の椅子や台などに使われているゴム製品が、床材表面に接触すると、ゴムに含まれる成分により汚染される事があります。この汚染は除去することができませんので、ゴムの使用を避けるかゴムが床に直接触れないように下敷きなど保護板を用いてください。

②カビ対策について

シートに水分が残っているとカビの原因となります。

長時間使用しない部屋では換気を心がけてください。水垢や髪の毛、石鹸カスなどもカビの原因となります。

③重量物を置く場合について

重量物を無理に引きずると剥がれ、膨れなどの原因となりますので注意してください。

局部的に荷重がかかる凹凸跡が残る場合がありますので、場所を替えて使用するなど注意してください。

④色移りなどについて

毛染め液、ヘアマニキュアなどの着色成分や化学薬品や強い作用を持つ洗剤、漂白剤などにより変退色や変質を招く可能性があります。こぼれた場合はただちに洗い流してください。また、履物やタオル、ランドリーバックなどに含まれる染料が床材に着色する場合がありますので、放置しないでください。

⑤金属さびについて

カミソリやヘアピンなど、さびの原因になるものを放置すると、さびがシートを変色させる場合がありますので、放置しないようにしてください。

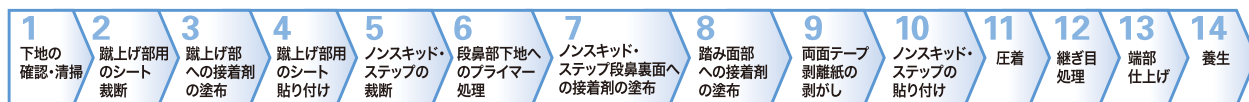
⑥日常ケアについて

シートの表面に水分が長時間滞留する状態が続くとシート表面が白っぽく変色する事があります。

この変色が発生した場合、充分に乾燥させる事で元の状態に戻りますが、水分が長時間滞留しないよう拭き取りや換気をするなど、こまめなケアが大切です。

ノンスキッド・ステップ(踏み面タイプ)施工説明

基本手順



1. 下地の確認・清掃

砂やチリ、埃等を除去し、適切な下地処理を行い、下地が十分に平滑で乾燥していることを確認してください。
※平鋼板下地は、エポキシ系防錆塗料で十分な防錆処理をしてください。

2. 蹴上げ部用のシート裁断

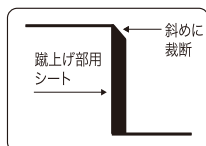
階段蹴上げ部の幅、高さを測定し、蹴込みシートの長手方向が階段蹴上げの幅方向となるように裁断してください。

3. 蹴上げ部への接着剤の塗布

階段蹴上げ部にWG10kg缶 (BB-602) を塗布してください。
※オープンタイムは20～50分程度が目安です。

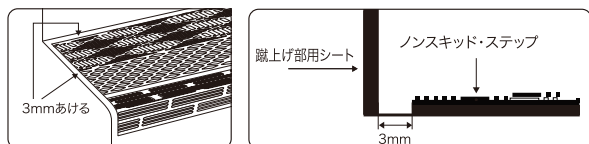
4. 蹴上げ部用のシート貼り付け

貼り付け後はハンドローラー等で十分圧着してください。
蹴上げ部用上部部は斜めに裁断してください。



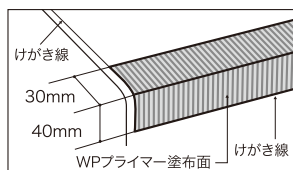
5. ノンスキッド・ステップの裁断

踏み面部の幅、奥行きを測定し、シール剤(端部処理剤)の仕上げしるとして3mm程度短く裁断してください。
左右両端部をあけて施工する場合、あらかじめ下地にあける寸法をけがき、幅を測定してください。
階段に排水溝がある場合は、排水溝より5～15mm程度手前でノンスキッド・ステップを裁断してください。



6. 段鼻部下地へのプライマー処理

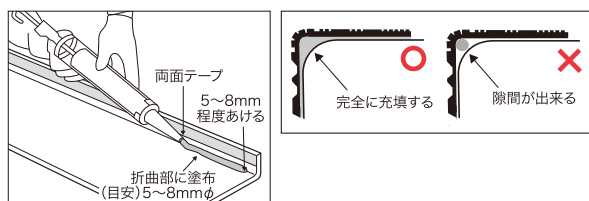
段鼻部の下地には、必ずプライマー処理を行ってください。



図の斜線部の下地に、WPプライマー (BB-507) をハケで均一に塗布し、30分程度乾燥させてください。
WPプライマー塗布面は、汚さないように注意してください。

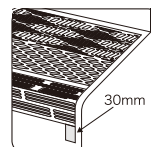
7. ノンスキッド・ステップ段鼻裏面への接着剤の塗布

ノンスキッド・ステップ段鼻の裏面に、WPステップ500gカートリッジ (BB-604) を目安として5～8mmφの太さで、塗布してください。
両端より5～8mm程度内側まで塗布してください。
ノンスキッド・ステップを貼り付けるとき、段鼻裏面から蹴上げ部に接着剤が行き渡り、強固に接着出来ます。
※オープンタイムは20～50分程度が目安です。
WPステップを塗布しなかったり、塗布量が不十分な場合、段鼻部の亀裂や剥離が発生する場合がありますので、ご注意ください。



8. 踏み面部への接着剤の塗布

WG10kg缶 (BB-602) を踏み面部全体(段鼻部の前垂れ部は含まず)にくし目ゴテで塗布してください。
※オープンタイムは20～50分程度が目安です。



9. 両面テープ剥離紙の剥がし

ノンスキッド・ステップ裏面に貼り付けてある両面テープの剥離紙を30mm程度剥がしてください。

10. ノンスキッド・ステップの貼り付け

ノンスキッド・ステップの折り曲げ部分を階段の段鼻部に合わせ、折り曲げ部に空洞が生じないように貼り付けてください。



11. 圧着

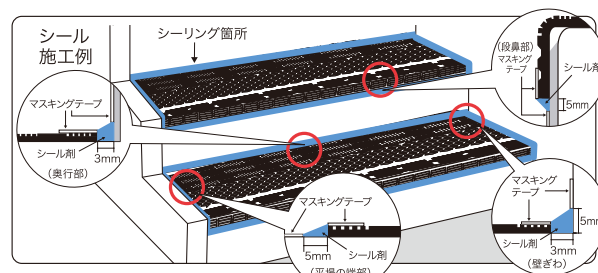
ノンスキッド・ステップの踏み面部をハンドローラーやコーナーローラー等で圧縮してください。
接着剤のはみ出し、商品の変形が発生する場合がありますので、段鼻部は圧縮し過ぎないようにご注意ください。
剥離紙を全て剥がし、前垂れ部をハンドローラーやゴムハンマー等で圧縮してください。
※接着剤が完全に硬化するまでは段鼻部を踏まないでください。

12. 継ぎ目処理

ノンスキッド・ステップとノンスキッドの継ぎ目は、接着剤が硬化してから、専用溶接棒を用いて熱溶接してください。

13. 端部仕上げ

ノンスキッド・ステップ蹴込みシート端部を、5mm幅程度に仕上がるようにマスキングテープで養生してください。
各種シール剤で周囲の端部をすべてシーリングします。
シーリング後、仕上げ用ヘラで仕上げ、マスキングテープを剥がします。



※ノンスキッド・ステップ(踏み面タイプ)のみの施工の場合です。蹴上げ部にシートを施工する際は、蹴上げ部両サイドもシーリングしてください。

14. 養生

清掃後、接着剤とシール剤が硬化するまで歩行を控えてください。(24時間程度)
特に、接着剤が硬化する前に段鼻部の角を踏まないようご注意ください。段鼻部が変形したまま接着剤が硬化しますと、剥離や亀裂が発生する恐れがあります。

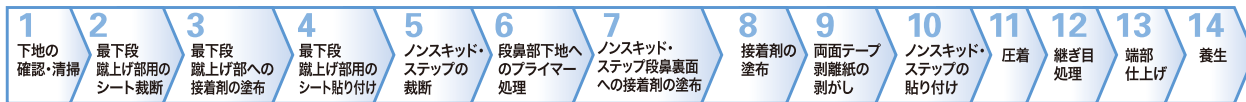
専用接着剤の標準塗布量

		900mm巾タイプ	1200mm巾タイプ
BB-602	WG10kg缶	110段/缶	82段/缶
BB-604	WPステップ 500gカートリッジ×2本セット	20段/セット	14段/セット
BB-507	WPプライマー400g缶	79段/缶	59段/缶

※踏み面の奥行き250mmを想定し算出しています。

ノンスキッド・ステップ(蹴込み一体タイプ)施工説明

基本手順



1. 下地の確認・清掃

砂やチリ、埃等を除去し、適切な下地処理を行い、下地が十分に平滑で乾燥していることを確認してください。
※平鋼板下地は、エポキシ系防錆塗料で十分な防錆処理をしてください。

2. 最下段蹴上げ部用のシート裁断

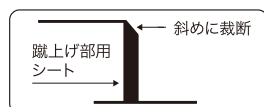
最下段の蹴上げ部の幅、高さを測定し、ノンスキッド・ステップを裁断して蹴込みシートとして使用してください。
残った材料は最上段の踊り場で使用します。

3. 最下段蹴上げ部への接着剤の塗布

最下段の蹴上げ部にWG10kg缶(BB-602)を塗布してください。
※オープンタイムは20～50分程度が目安です。

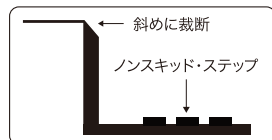
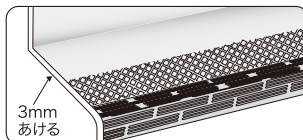
4. 最下段蹴上げ部用のシート貼り付け

貼り付け後はハンドローラー等で十分圧着してください。
蹴上げ部用シート上端部は斜めに裁断してください。



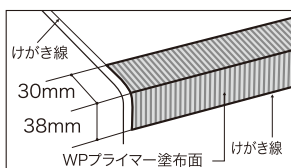
5. ノンスキッド・ステップの裁断

踏み面部の幅・奥行き、蹴上げ部の幅・高さを測定し、シール剤(端部処理剤)の仕上げしろとして幅は3mm程度短く裁断してください。
左右両端部をあげて施工する場合、あらかじめ下地にあける寸法をけがき、幅を測定してください。
階段に排水溝がある場合は、排水溝より5～15mm程度手前でノンスキッド・ステップを裁断してください。



6. 段鼻部下地へのプライマー処理

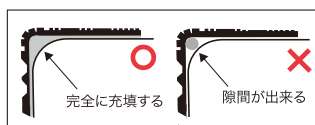
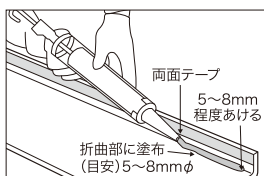
段鼻部の下地には、必ずプライマー処理を行ってください。



図の斜線部の下地に、WPプライマー(BB-507)をハケで均一に塗布し、30分程度乾燥させてください。
WPプライマー塗布面は、汚さないように注意してください。

7. ノンスキッド・ステップ段鼻裏面への接着剤の塗布

ノンスキッド・ステップ段鼻の裏面に、WPステップ500gカートリッジ(BB-604)を目安として5～8mmφの太さで、塗布してください。
両端より5～8mm程度内側まで塗布してください。
ノンスキッド・ステップを貼り付けるとき、段鼻裏面から蹴上げ部に接着剤が行き渡り、強固に接着出来ます。
※オープンタイムは20～50分程度が目安です。
WPステップを塗布しなかったり、塗布量が不十分な場合、段鼻部の亀裂や剥離が発生する場合がありますので、ご注意ください。

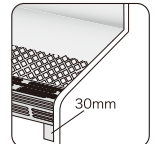


8. 接着剤の塗布

WG10kg缶(BB-602)を、踏み面及び蹴上げ部全体(段鼻部の前垂れ部は含まず)にくし目ゴテで塗布してください。
※オープンタイムは20～50分程度が目安です。

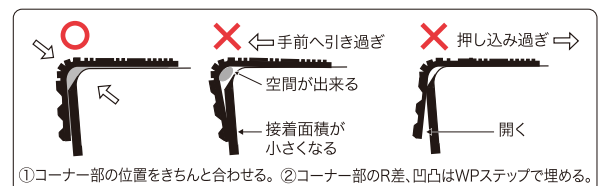
9. 両面テープ剥離紙の剥がし

ノンスキッド・ステップ裏面に貼り付けてある両面テープの剥離紙を30mm程度剥がしてください。



10. ノンスキッド・ステップの貼り付け

ノンスキッド・ステップの折り曲げ部分を階段の段鼻部に合わせ、折り曲げ部に空洞が生じないように貼り付けてください。



蹴上げ部への貼り付けはシート裏面をガストーチで加熱し、コーナーローラーなどで軽く折ぐせをつけてから、貼り付けてください。

11. 圧着

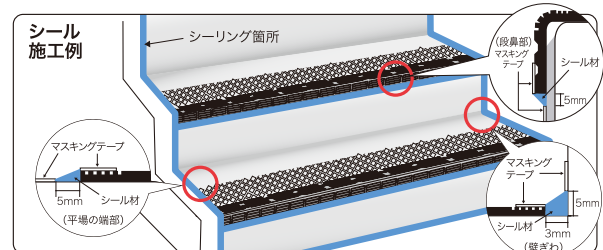
ノンスキッド・ステップの踏み面部及び蹴上げ部をハンドローラーやコーナーローラー等で圧着してください。
接着剤のみ出し、商品の変形が発生する場合がありますので、段鼻部は圧着し過ぎないようにご注意ください。
剥離紙を全て剥がし、前垂れ部をハンドローラーやゴムハンマー等で圧着してください。
※接着剤が完全に硬化するまでは段鼻部を踏まないでください。

12. 継ぎ目処理

ノンスキッド・ステップとノンスキッドの継ぎ目は、接着剤が硬化してから、専用溶接棒を用いて熱溶接してください。

13. 端部仕上げ

ノンスキッド・ステップ端部を、5mm幅程度に仕上がるようにマスキングテープで養生してください。
各種シール材で周囲の端部をすべてシーリングします。
シーリング後、仕上げ用ヘラで仕上げ、マスキングテープを剥がします。



14. 養生

清掃後、接着剤とシール剤が硬化するまで歩行を控えてください。(24時間程度)
特に、接着剤が硬化する前に段鼻部の角を踏まないようご注意ください。
段鼻部が変形したまま接着剤が硬化しますと、剥離や亀裂が発生する恐れがあります。

専用接着剤の標準塗布量

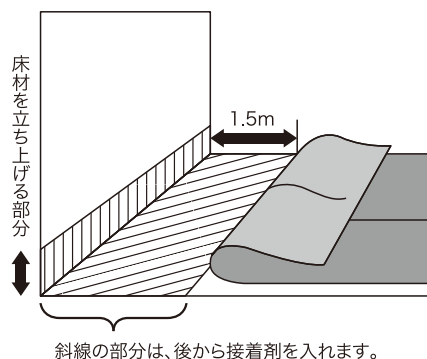
		900mm巾タイプ	1200mm巾タイプ
BB-602	WG10kg缶	60段/缶	46段/缶
BB-604	WPステップ 500gカートリッジ×2本セット	20段/セット	14段/セット
BB-507	WPプライマー400g缶	79段/缶	59段/缶

※踏み面の奥行き250mm、蹴上げの高さ200mmを想定し算出しています。

巻き上げ施工説明

1.床面への施工

ビニル床シートを巾木の代わりとして巻き上げるため、巻き上げに必要な面積を荒切り時から計算して残しておき、シートを施工します。



斜線の部分は、後から接着剤を入れます。

2.巻き上げ部分を施工

巻き上げ部分の壁に接着剤を塗布しシートを巻き上げて貼付します。シートが硬くて巻き上がらないときは、トーチランプ等で温めて柔らかくしながら施工してください。
必要に応じて面材 (PM-4761・4762) を使用してください。

モール材を使用する場合

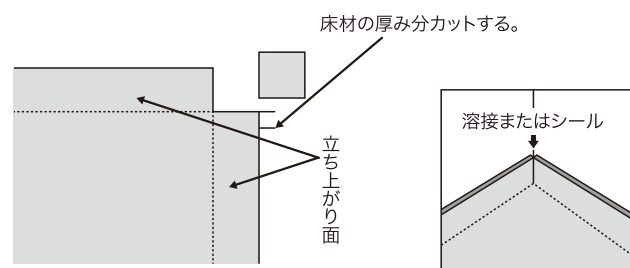
巻き上げ高さ天端の墨線に沿ってモール材を貼り付けていきます。モール材には両面テープが施してありますが、下地によってはモール材の端部や裏面にベンリダイン瞬間ゼリー (BB-589) を塗布してください。巻き上げ部へシートを貼り付け後、モール材のシート飲み込み部下線に沿ってフックカッター等で隙間が生じないように切り込んでください。

3.ジョイントの施工

ジョイントの施工は接着剤が硬化したのを確認してから熱溶接やパーフェクトシームジェルチューブ入り (BB-394) で処理してください。接着剤の硬化を十分に得られないとジョイント部の剥がれに繋がるため、貼り付け後24時間養生してください。

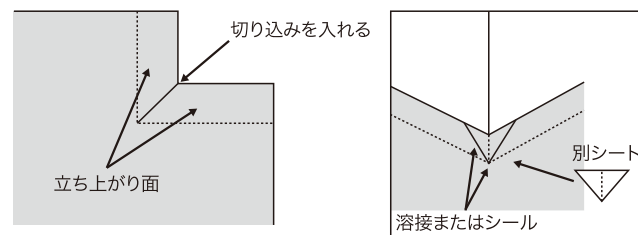
入隅処理

入隅部分に合せて角を四角く切り込み、施工する。継ぎ目部分は熱溶接やパーフェクトシームジェルチューブ入り (BB-394) で処理してください。



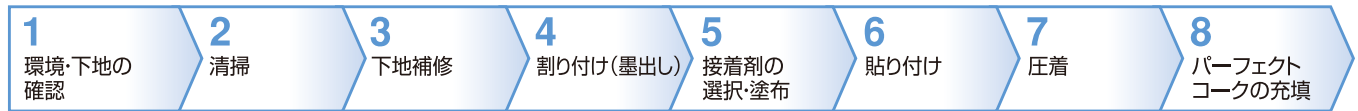
出隅処理

出隅部分に合せてシートを切り込み、出隅部分は端材などから別シートを切り出して継ぎ足します。継ぎ目部分は熱溶接やパーフェクトシームジェルチューブ入り (BB-394) で処理してください。巻き上げ施工において、特に出隅部分の施工が困難であり、慎重に施工してください。
必要に応じて面材出隅材 (PM-4761-1・4762-1) を使用してください。



ラウンドエッジ 施工・メンテナンス説明

■基本手順



■施工について

1.環境・下地の確認

砂や塵、埃などを除去し、適切な下地処理を行い、平滑でよく乾燥していることを確認してください。

貼り替えの場合、下地に残った接着剤をきれいに除去してください。下地に不陸がある場合は、フロアセメント (BB-492・493) にて平滑にしてください。

2.清掃

床の汚れ・ゴミ・塵などは接着剤の効力を弱め、クレームの原因に繋がるため、清掃をしっかりと行ってください。

3.下地補修

下地の確認を行った時点で、下地に亀裂が見られたり、平滑でないときなど、床用の下地調整材で補修してください。

4.割り付け(墨出し)

基準線を中心にして左右対称になるよう墨を打ってください。壁際には商品サイズの半分以上の端物が入ることは、できる限り避けてください。そういった場合は基準線を中心からずらしていただく事をおすすめします。

5.接着剤の選択・塗布

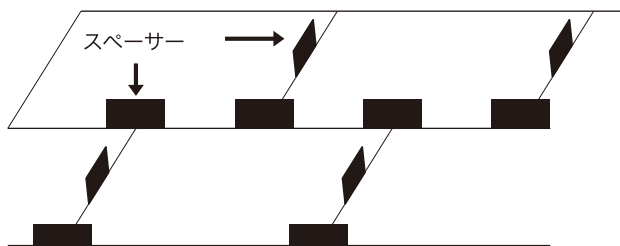
一般工法: PC-2、AR

耐湿工法: EP-300、WPX、WG

接着剤塗布時は、接着剤指定のヘラを使用してください。

6.貼り付け

ラウンドエッジの素材感を活かし、長く美観を維持するためにパーフェクトコーク (BB-591・593・599) を使用した目地剤施工をしてください。同梱のスペーサー (1.6mm厚) を使用すると、目地の幅が等間隔となり、施工中のズレの防止にも役立ちます。



設計上やむを得ない事情により、突きつけ施工をする場合、パーフェクトシームジェルチューブ入り (BB-394) で止水処理してください。

目地剤施工を行わなかった場合、目地から水分が浸入し、接着阻害による下地からのタイルの剥離、タイルの層間での剥離が発生する場合があります。

デザイン貼りなどで、タイルをカットしての突き合わせがある場合、パーフェクトシームで剥離防止処理を行ってください。

壁面でのカットによる断面処理は、壁に対し2～3mmの隙間をとってパーフェクトコークを充填してください。市販のシリコンを使用する場合は隙間なしで充填してください。

7.圧着

バンドローラーでの圧着時にスペーサーを外してください。

スペーサーを外すタイミングが早いと、タイルがずれてしまう場合がありますので注意してください。

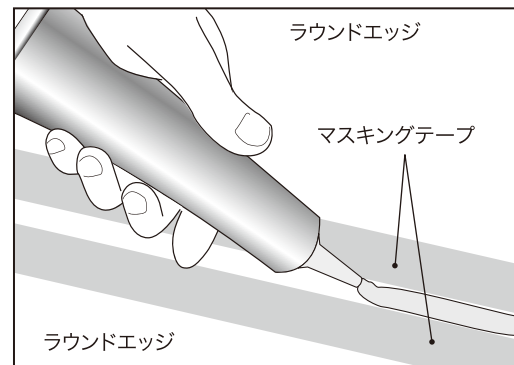
8.パーフェクトコークの充填

パーフェクトコークを充填する時は、マスキングテープでタイルを保護すると、はみ出しによる汚れを防げます。

マスキングテープを使用しない場合、パーフェクトコークのはみ出しは、乾燥する前にきれいな濡れ雑巾などでふき取ってください。

丸みのあるヘラや、指を保護した状態でパーフェクトコーク表面をなぞるときれいに仕上がります。

パーフェクトコークの施工可能㎡数は1本当たり4.5㎡が目安です。



■メンテナンスについて

1.クリーニング

モップを使用する際は、清水を染みこませ固く絞り、水分の使用を極力控えてください。

しつこい汚れはスカットクリーナー (BB-477) で落としてください。スカットクリーナーが目地部分に付着しないようご注意ください。

2.ワックス

クリーニングを行った上で、定期的にワックスの塗布を行ってください。

3.ポリッシャー

局部的な摩耗を避けるため、目が粗い黒パッドの使用はお避けください。ブラシは目地剤を傷めることがあるためお避けください。

4.剥離洗浄

ワックス除去後すぐに、固く絞ったモップでリムーバーを拭き取り、残留が無いようにしてください。

5.目地剤

目地剤が汚れたり、欠落した場合、汚れを取り除き再充填してください。

■注意事項

施工場所

トイレなど常にか水がかかる場所や、キャスト付き重量物が移動する場所での使用はお避けください。

保管場所

高温 (50℃以上) となる環境での保管はお避けください。

施工前の商品養生

箱から出して積み重ね (最大10ケースまで)、平坦な場所で24時間以上室温になじませてください。

施工環境

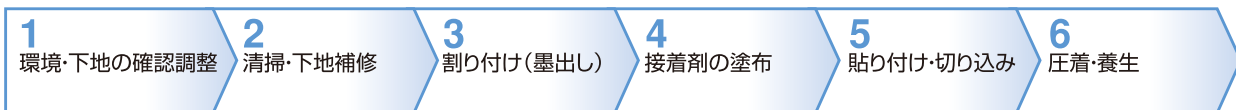
施工環境温度は15℃以上を保ってください。

パーフェクトコークの乾燥

パーフェクトコークは乾燥するまで最低24時間かかります。その間、歩行を制限するか、通気性のあるシートなどで汚れを防いでください。

ゼクス 施工説明

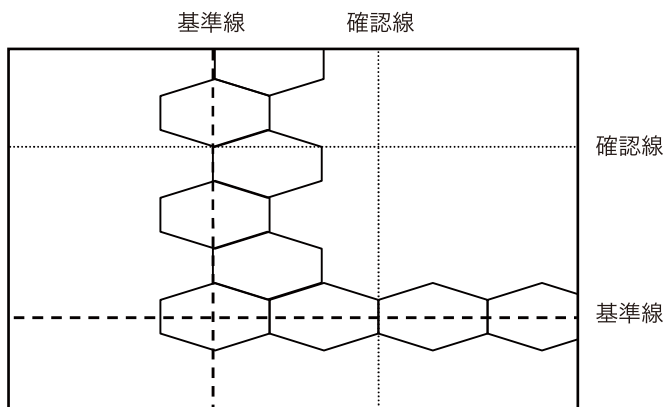
■基本手順



施工の基本手順(1.環境・下地の確認調整、2.清掃・下地補修、6.圧着・養生)は一般的なフロアタイル(複層ビニル床タイル)施工に準じます。

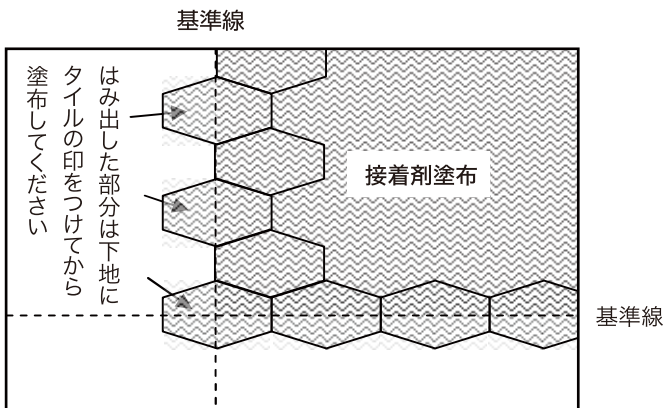
3.割り付け(墨出し)

壁際のタイルの納まりを考慮した割り付けを行い、基準線を引いてください。
貼り進める際に、必要に応じてタテ・ヨコに確認線を引きながら、ズレがないように貼り付けてください。



4.接着剤の塗布

区画を分けて接着剤を塗布する際は、基準線からはみ出して施工するタイルの箇所には、下地にタイルの位置の印をつけてから塗布してください。



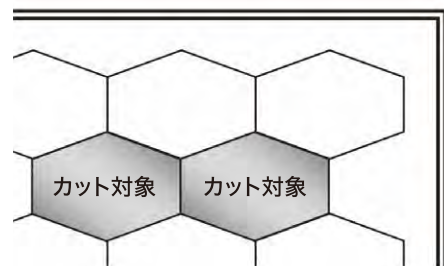
■注意事項

- カッティングの精度には十分注意しておりますが、タイルの寸法にバラつきがある場合、寸法の調整や目地剤(パーフェクトコーク BB-590~599・605)の充填をお願いします。
- 特殊な形状のため、割り付けや施工に時間を要することをお含みおください。

5.貼り付け・切り込み

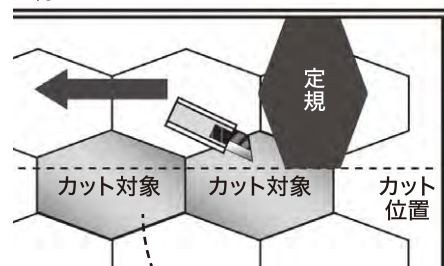
壁際の仕上げは、タイルを定規にする手法が可能です。

壁際

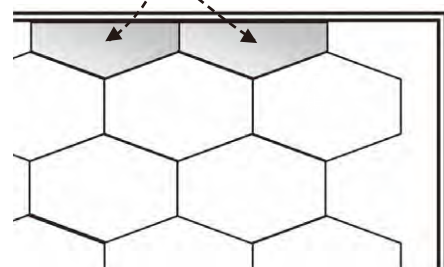


- ①
カット対象のタイルを1枚手前の貼り付け済のタイルの上に角・辺を合わせて正確に置きます。

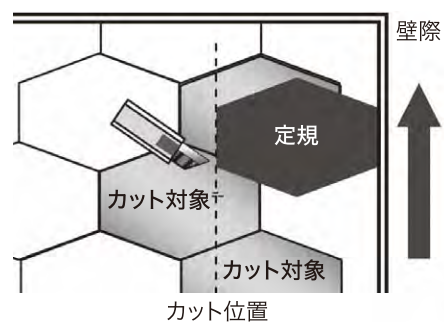
壁際



- ②
タイルを使用し、左図のように定規としてスライドさせながら切り込みを入れカットします。



- ③
カットしたタイル片をはめ込みます。



- ④
もう片方の壁際も同様にタイルを定規としてスライドさせながら切り込みを入れカットします。

コーナー部分のカットの際には、定規として使用するタイルの端をカットすると便利です。



リフォルト施工説明

■基本手順



1.環境・下地の確認

施工時の環境(湿気・温度)を確認してください。
下地がモルタル下地の場合、十分に乾燥しているかを確認してください。
※下地の水分レベルはグレードI(水分計HI-520-2のD.MODEで440未満)としてください。
合板下地の場合、釘止めで、釘頭は良く打ちこんでであることを確認してください。下地のたわみや段差がないか確認してください。
砂や塵、埃等を除去し、適切な下地処理を行い、平滑でよく乾燥し、強固であることを確認してください。下地に不陸や隙間(フローリングの目地隙など)があるまま施工すると、施工後にタイルの表面に不陸や隙の形状が陰影として映ることがあります。
貼り替えの場合、下地に残った接着剤はきれいに除去、または下地補修材で平滑に仕上げてください。

施工可能な下地

コンパネ/モルタル/クッションフロア(3.0mm厚未満)/フローリング(バックングの無いもの)

施工できない下地

フリーアクセスフロア/クッションバックング付きのフローリング/3.0mm厚以上のクッションフロア/クッション性が高く沈み込みの激しい床材等
※制電タイプのタイルではありませんので、帯電防止性能を求められる場所での使用は避けてください。

2.清掃

床の汚れ・ゴミ・塵などは接着剤の効力を弱めクレームの原因に繋がるため、清掃をしっかりと行ってください。

3.下地補修

下地の確認を行った時点で、下地の亀裂や平滑でない部分は、床用の下地調整材で補修してください。

4.割り付け(墨出し)

基準線を中心にして左右対称になるよう墨を打ってください。壁際には商品サイズの半分以下の端物が入ることは、できる限り避けてください。そういった場合は基準線を中心からずらしていただく事をおすすめします。

5.接着剤の選択・塗布

①かんたんリフォーム工法(ピールアップ工法)

GTS(BB-558・588)を専用ヘラ(BB-401)またはローラー(中毛)で平滑に塗布してください。専用接着剤GTSの塗布量は100g~150g/m²です。糊だまりや塗りムラがあると表面に塗布跡が現れる場合があります。ローラーで塗布する場合は、厚塗りを行ってください。
(1度塗りでは50g/m²しか塗布できません。)
塗布量が少なく、接着力が不足し、突き上げや目隙の原因となります。

②一般工法(接着工法)

PC-2(BB-576・577)をご使用ください。
※完全接着するため剥がしにくくなります。
※気温、下地を考慮し、各接着剤の適切なオープンタイムを取ってください。

③耐湿・耐熱工法(水分が高い、または耐熱が求められる場合)

EP-300(BB-575・584)・WPX(BB-479・480)・WG(BB-601・602・603)をご使用ください。
※完全接着するため剥がしにくくなります。

▶**注意** 吸水性の高い下地や、下地補修材で調整を行った箇所は、塗布量を増やしてください。
常に直射日光が当たる場合、床暖房を使用される場合は、耐熱工法を行ってください。

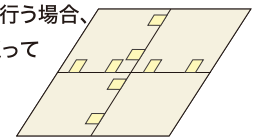
6.貼り付け

施工時の環境の室温は15~30℃を保ってください。施工時の室温とタイルに温度差があると、施工直後だけではなく、後日、目地隙き、突き上げが生じる可能性があります。

▶**注意** 10℃以下での施工は避けてください。

タイルの詰めすぎは、突上げの原因になりますのでお避けください。
夏場などの高温時は、『きつめ』に施工してください。

やむなく15℃以下でピールアップ工法を行う場合、同梱のスペーサー(0.2mm厚)を切り取って使用してください。



タイルにガラス織布が入っているため、通常のタイルよりもしっかりとカッターを入れてください。
壁際、柱まわりに使用するタイルは、垂直にカットし、1~2mmゆとりを持たせて、貼り付けてください。

7.圧着

施工後はボンローラーなどでよく圧着してください。
スペーサーの除去は圧着前に行ってください。
スペーサーをはずすタイミングが早いと、タイルがずれてしまう場合がありますので注意してください。

8.養生

施工直後はタイルの上をできるだけ通行しないようにするか、通気性のあるシートで表面を覆い、汚れが付かないようにしてください。
急激な温度変化によって、目地の突き上げや、表面の変退色が起こることがあります。

▶**注意** 直射日光が当たる場所ではカーテンなどで必ず日除けを行ってください。一般工法の場合は1週間程、耐湿・耐熱工法の場合は2日間程の養生が必要です。

リフォルタ框材・見切材 施工説明

■基本手順



■框(かまち)材

玄関などタイルの側面が横から見えてしまう場合にご使用ください。

1. 環境・下地の確認

施工時の環境(湿気・温度)を確認してください。

下地がモルタル下地の場合、十分に乾燥しているかを確認してください。
※下地の水分レベルはグレードI(水分計HI-520-2のD.MODEで440未満)としてください。

合板下地の場合、釘止めで、釘頭は良く打ちこんでであることを確認してください。下地のたわみや段差がないか確認してください。

砂や塵、埃等を除去し、適切な下地処理を行い、平滑でよく乾燥し、強固であることを確認してください。下地に不陸や隙間(フローリングの目地隙など)があるまま施工すると、施工後に框材の表面に不陸や隙の形状が陰影として映ることがあります。

貼り替えの場合、下地に残った接着剤はきれいに除去、または下地補修材で平滑に仕上げてください。

下地は新規もしくは施工可能な既存の上り框、床材に施工してください。

2. 清掃・下地補修

砂や塵、埃等を除去し、ひびやカケがあれば、適切な下地処理を行ってください。下地に不陸や隙間がある状態で施工すると、施工後に接着不良や段差、不陸の原因となります。

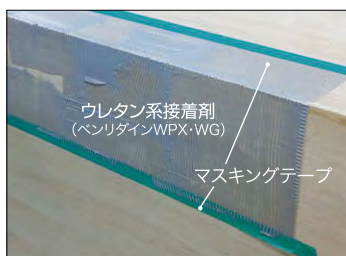
3. 框材のカット

框材を施工場所に合わせてカットしてください。

4. 接着剤の選択・塗布

【工法1】下地に接着剤を塗布する工法

余分な箇所に接着剤がはみ出さないようにマスキングテープを貼り、接着剤を塗布します。框部分は普段の生活の中でも荷重や負荷のかかる部分ですので、より接着強度のあるWPX(BB-479・480)・WG(BB-601・602・603)を使用してください。



【工法2】框材に接着剤を塗布する工法

框材に仮止め用に両面テープを角の溝部分から少し離れたところへ、溝の両側に貼ります。両面テープの離型紙に被るくらいに接着剤を塗布します。接着剤はWPX(BB-479・480)・WG(BB-601・602・603)を使用してください。また接着剤が商品の表側に付着しないよう注意してください。

*BB-302 両面テープ 標準価格(税別) 380円/20m巻



段鼻(角の部分)の補強

角に当たる段鼻部分は、特に負荷が掛かる場所ですので、工法1、2とも強度を上げるため、框材の裏面の溝に変成シリコン樹脂系シーリング剤、変成シリコン樹脂系または、シリル化ウレタン樹脂系接着剤を塗布してください。

*HSシール(BB-553~555、562~564、574)

*副資材(推奨品) ※以下の商品の同等品での施工が可能です。
セメダイン(株) スーパーXシリーズ(変成シリコン樹脂系接着剤)
コニシ(株) ウルトラ多用途SUシリーズ(シリル化ウレタン樹脂系接着剤)

5. 貼り合わせ・圧着

オープンタイムを取ってから、下地に框材を貼り合わせ、ローラーでよく圧着します。

6. リフォルタの施工

框を先に取り付けてからリフォームタイル「リフォルタ」の施工を行います。タイル用接着剤が框材に付着しないように養生をしてください。

■見切材

リフォルタの小口の処理にご使用ください。

※上から貼るだけで簡単に施工ができます。

①見切り材のカット

見切材を施工場所に合わせてカットしてください。

②貼り付け

裏面の両面テープの離型紙を剥がし、約5cm間隔で瞬間接着剤を塗布してください。

*BB-546 ペンリダイン瞬間 標準価格(税別) 1,200円/本

*BB-589 ペンリダイン瞬間ゼリー 標準価格(税別) 1,550円/本

見切材をつなげて施工する場合は、見切材の断面にも瞬間接着剤を塗布してください。

ローラーでよく圧着してください。



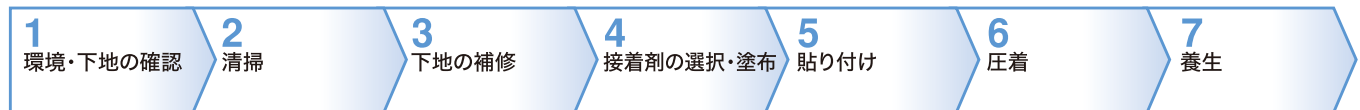
■注意事項

保管場所

高温場所(50℃以上)での保管は避けてください。

OT 置敷き帯電防止ビニル床タイル 施工説明

■基本手順



■OTの施工

1.環境・下地の確認

施工時の環境(湿気・温度)を確認してください。
下地がモルタル下地の場合、十分に乾燥しているかを確認してください。
※下地の水分レベルはグレードI(水分計HI-520-2のD.MODEで440未満)としてください。
合板下地の場合、釘止めで、釘頭は良く打ちこんでいることを確認してください。下地のたわみや段差がないか確認してください。
砂や塵、埃などを除去し、適切な下地処理を行い、平滑で良く乾燥し、強固であることを確認してください。下地に不陸や隙間(フローリングの目地隙など)がある状態で施工すると、施工後にタイルの表面に不陸や隙の形状が陰影として映ることがあります。
貼り替えの場合、下地に残った接着剤はきれいに除去、または下地補修材で平滑に仕上げてください。
二重床の場合、下地パネルの段差は1mm以内・隙間は2mm以内に調整し、下地パネルがしっかりと固定されて動かないこと、たわまないことを確認してください。パネルの表面は凹凸の無いものを使用してください。
下地パネルの種類や表面形状によってはOTの施工に適さない場合があります。

下地OAフロアに関して

固定式ではないOAフロアの場合、下地パネル自体が歩行や温度変化で動く場合があります。
下地が動くことでタイルの突き上げや反り、目地隙やズレに繋がる場合があります。
表面形状がフラットではなく凹凸があり、またメッシュ形状になっているなど、OTと接する面積が少ないOAフロアの場合、接着力が不足し接着不良に繋がる場合があります。

2.清掃

床が汚れ・ゴミ・塵などは接着剤の効力を弱め、クレームの原因に繋がるため、清掃をしっかりと行ってください。

3.下地の補修

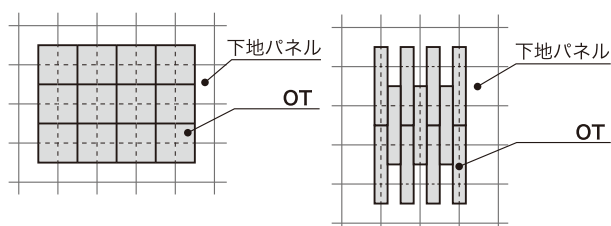
下地の確認を行った時点で、下地の亀裂や平滑でない部分は、床用の下地調整材で補修してください。

4.接着剤の選択・塗布(置き敷き工法の場合)

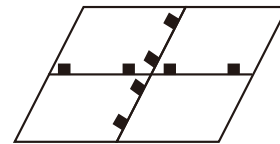
モルタルの場合:GT(BB-352・353)、GTS(BB-558・588)
塗布量の目安は80g/㎡です。
二重床の場合:GT(BB-352・353)、GTS(BB-558・588)
塗布量の目安は40g/㎡です。
※接着剤塗布時は、スポンジローラー(中毛タイプ)を使用して下地全面に塗布してください。オープントイムは接着剤が半透明になるまでお待ちください。塗布量が少ないと、施工後に突き上げや目隙の原因となります。下地の吸水性や表面形状、歩行頻度に応じて塗布量を増やすなど調整してください。

5.貼り付け

室温にタイルを馴染ませてから低温時は『ゆるめ』に施工してください。
タイルの詰めすぎは突上げの原因になりますので避けてください。
二重床の場合は1/2ずらし施工(馬かけ施工)を行ってください。



15℃以下での施工の場合、同梱のスペーサーを切り取って使用してください。(目地の幅が等間隔となり、施工中のズレの防止にも役立ちます。)



タイル断面を斜めに切ると後日突上げる事がありますので垂直にカットしてください。

6.圧着

ポンドローラーでの圧着時にスペーサーを外してください。
スペーサーを外すタイミングが早いと、タイルがズレてしまう場合がありますので注意してください。

7.養生

施工直後は、タイルの上をできるだけ通行しないようにするか、通気性のあるシートで表面を覆い、汚れが付かないようにしてください。通気性のないシートは使用しないでください。
直射日光が当る場所では、カーテンなどで必ず日除けをしてください。
急激な温度変化によって、目地の突き上げや、表面の変退色が起こることがあります。

■注意事項

施工場所

サーバールームなどの高い電気性能を要する場所での使用は避けください。

施工前の商品養生

箱から出して積み重ね(最大10ケースまで)、平坦な場所で24時間以上室温に馴染ませてください。

保管場所

高温場所(50℃以上)での保管は避けください。

施工環境

施工環境温度は15℃以上を保ってください。

ハートビルマーカ―・テリトリーチップ 施工説明

■基本手順



■ハートビルマーカ―の施工-ワンタッチ工法

1.環境・下地の確認

モルタル・コンクリート下地・石材・磁器タイル・ガラスブロック・ビニル床タイル・ビニル床シート・フローリング・塗り床など平滑な床材に使用できます。ジェットバーナー仕上げの石やアスファルトなど凹凸のある床面や外部では使用できません。

2.清掃

床の貼り付け面をアルコールなどで拭き、ホコリ、汚れ、油分、水分を除去してください。

3.墨出し

取り付け位置を墨出ししてください。

4.プライマーの塗布

モルタルや磁器タイルなど粗面の床材に取り付ける場合は、取り付け位置に専用プライマーを塗布し、十分に乾燥させてください。ハートビルマーカ―の台紙はプライマーを塗布するゲージとして使用できます。

5.貼り付け

裏面のリケイ紙を剥がし、基準墨に合わせて貼ってください。寒冷地での施工は、チップ粘着面をドライヤーで温めて接着してください。

6.圧着・養生

台紙の表面より、全てのチップをゴムハンマーで軽くたたいて圧着し、台紙をゆっくり取り外してください。

■テリトリーチップ-ワンタッチ工法

1.環境・下地の確認

モルタル・コンクリート下地・石材・磁器タイル・ガラスブロック・ビニル床タイル・ビニル床シート・フローリング・塗り床など平滑な床材に使用できます。ジェットバーナー仕上げの石やアスファルトなど凹凸のある床面や外部では使用できません。

2.清掃

床の貼り付け面をアルコールなどで拭き、ホコリ、汚れ、油分、水分を除去してください。

3.墨出し

取り付け位置を墨出ししてください。

4.プライマーの塗布

モルタルや磁器タイルなど粗面の床材に取り付ける場合は、取り付け位置に専用プライマーをハケなどで塗布し、十分に乾燥させてください。

5.貼り付け

テリトリーチップ裏面のリケイ紙を剥がし、基準墨に合わせて貼り付けてください。

6.圧着・養生

指で十分に圧着してください。

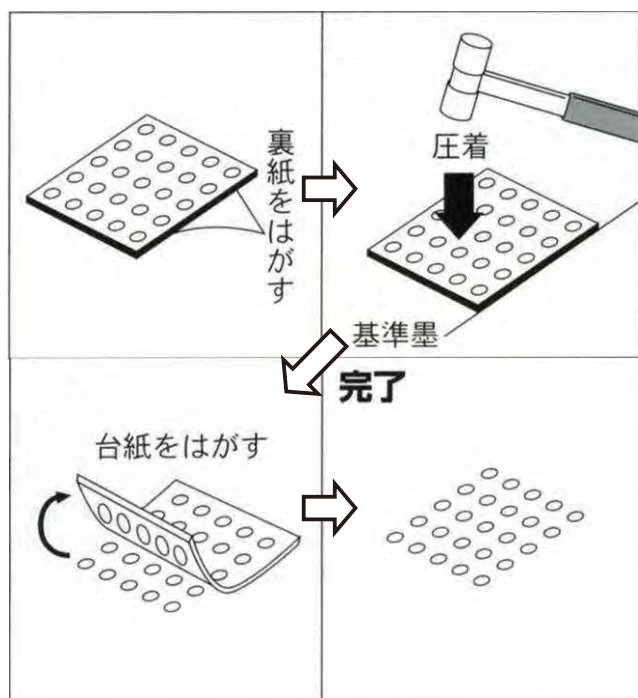
■注意事項(ハートビルマーカ―・テリトリーチップ)

屋内用です。(外部には使用できません)

石、磁器タイルなど目地がある下地の場合、目地をまたいで貼らないでください。目地上で使用する場合は下地補修材などでチップの貼り付け箇所にかかる目地を埋めて、更にプライマーを塗布してご使用ください。

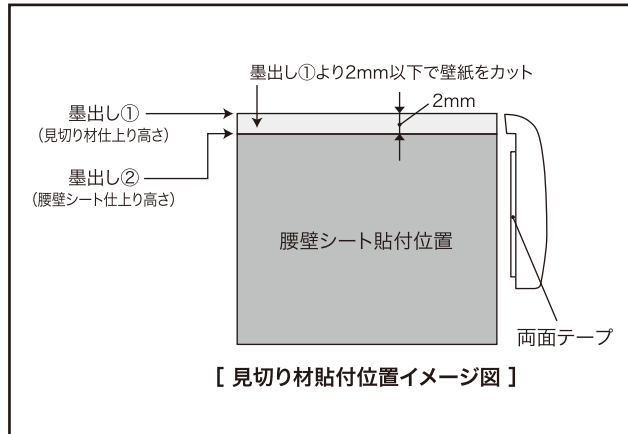
塗り床は施工可能ですが、塗装がよく密着していない場合は使用できませんので、試し貼りした上で確認してください。

テリトリーチップは床面が粗面の場合、専用接着剤を使用した接着工法をお勧めします。専用接着剤・専用プライマーに関しては弊社営業担当者までお問い合わせください。



腰壁シート 施工説明

■基本手順



1. 下地の確認・補修

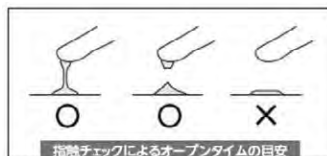
腰壁シートの厚みは1.1mmと薄いため、下地の不陸等の不具合があると、その部分がシート表面に発現します。
必ず下地にパテ処理等を行い、平滑な状態で施工してください。

2. 墨出し

- ①見切り材の仕上がり高さ(見切り材の上部位置)を設定し、墨をうってください(上図:墨出し①)。
※施工後に拭き取れるようチョークリールをご使用ください。
- ②墨出し①の2mm下(=腰壁シートの仕上がり高さ)の位置へ水平に墨をうってください(上図:墨出し②)。
- ③壁紙が貼られている場合、見切り材の仕上がり高さ(墨出し①)より2mm以下で壁紙をカットし、裏打ち紙まで剥がしてください。

3. 腰壁シートの貼り付け

- ①AR(BB-516・517)、PC-2(BB-576・577)を付属のヘラを用い、腰壁シートを貼り付ける壁面全体に塗布してください。
- ②墨出し線に合せ、シートを貼り付けてください。
- ③オープントイムは、気温や湿度条件によりタック発現時間が異なります。必ず指触による確認を行ってください。
- ④腰壁シートの厚みは1.1mmと薄いため、オープントイムを取り過ぎると、接着剤のくし目跡が凹凸の原因になり、シート表面に発現する恐れがあります。
- ⑤墨出し線②に合わせ、シートを貼り付けてください。
- ⑥巾木は、腰壁シートの上から貼り付けるため、腰壁シートは床まで施工してください。
- ⑦必ずスキージ・ローラー・しごき棒等で確実にエア抜きを行いながら、貼り付けてください。
- ⑧腰壁シートのジョイントは原則、入隅以外で行わないようにしてください。やむを得ず入隅以外でジョイントを行った場合には、重ね切りで処理してください。また、シートの継ぎ目処理は、パーフェクトシームジェルチューブ入り(BB-394)を注入してください。
※重ね切りを行う場合は、下地を傷めないよう必ず下敷きをご使用ください。



4. 見切り材の貼り付け(専用部材: [1] ~ [3]、[6])

- ①出隅材、入隅材を貼り付けます。(専用部材: [2]、[3])
墨出し①に沿って各部材を貼り付けてください。^{※1}必ずペンリデザイン瞬間ゼリー(BB-589)を塗布し、補強してください。
- ②見切り材(2000mm)を必要な寸法に正確にカットし、上記と同様に貼り付けます。ペンリデザイン瞬間ゼリー(BB-589)は200mm~300mm間隔で塗布して接着ください。
^{※必ず、ローラーで圧着して固定してください。圧着が不足すると見切り材の剥がれ、隙間の発生に繋がります。}
- ③見切り材同士の継ぎ目(断面部)にもペンリデザイン瞬間ゼリー(BB-589)を塗布して接着してください。
- ④必要に応じてエンド材を貼り付けます。施工方法は見切り材と同様です(専用部材: エンド材 [6])。
^{※見切り材(4.5mm厚)が建具等よりも厚い場合などは、見切り材の断面を隠すためエンド材を使用します。また、半裁することで左右でご使用いただけます。}

5. コーナー材の貼り付け(専用部材: 出隅用: [4]、入隅用: [5])

- ①出隅材、入隅材の下部から床面までの長さを正確に測り、コーナー材をカットしてください。
- ②片方の剥離紙を剥がしてから、位置を決め、腰壁シート面にコーナー材の片側を貼り付けた後、もう片方の剥離紙を剥がし、隙間のないように十分に圧着してください。貼り付けたコーナー材の端部の浮きは、ペンリデザイン瞬間ゼリー(BB-589)を塗布して接着してください。

6. 巾木の貼り付け

巾木糊(BB-560・561)、FM-1(BB-578・579・580)を専用ヘラまたは巾木用樹脂ヘラを使用して施工個所に塗布し、オープントイムを取って貼り付け、よく圧着してください。接着剤のはみ出しには注意してください。

ビニル系床材メンテナンスガイド

一般的なビニル系床材のメンテナンス

一般ビニル

床材を長く美しくご使用いただくためには適切なメンテナンスが必要です。
歩行量や汚れの段階に応じた計画的なメンテナンスにより、床材の耐用年数を延ばすことができます。



注意事項

- 床材やご使用用途・目的に応じた洗浄剤やワックス、剥離剤、パッドをお選びください。
また、洗浄剤やワックス、剥離剤は製造元が推奨する使用方法を必ずご確認の上、ご使用ください。
- 床材とワックスとの密着性は商品によって異なります。各商品の推奨ワックスについては弊社営業担当者までお問い合わせください。
- ビニル床タイルの場合は目地から水、洗浄剤、ワックス、剥離剤がタイル裏面に入り込まないようにご注意ください。接着剤を無力化させ突き上げや反りなどの不具合、二重床の場合は配線やOA機材の不具合が発生する恐れがあります。モップに染み込ませる量を調整するなどご注意ください。

WF ワックスフリー ビニル系床材のメンテナンス

WF ワックスフリー
WAX FREE 単層タイプ

メガリット	グラニット
オデオンPUR	メディントーン

WF ワックスフリー
WAX FREE 複層タイプ

ナーシングフロア	ストロング	SKフロア	メディウォーク	OT
エスリューム・ジャトパウド	エスリューム・ミスト	エスリューム・ウィーブ	エスリューム・ファイバー	
エスリューム・ルーミー	エスリューム・プレーン	エスリューム・マーブル	消臭レストリューム	

ワックスを使用しないメンテナンスが可能です。
施設利用者や運営者はもちろん、環境にも負荷が少ない理想的な床材です。

初期 メンテナンス

使用前

- 引渡し前に付着した汚れを清掃、洗浄します。
※接着剤の完全硬化までは洗浄作業を行わないでください。

WF ワックスフリー
WAX FREE 単層タイプ

- ポリッシャー（磨き用パッド）で洗い磨きをしてください。
※洗い磨きをすることで汚れを落とすだけでなく、床材表面の平滑性が増し汚れにくくなりますので、日常メンテナンスが容易になります。

日常 メンテナンス

毎日 予防清掃

- 床材上の土砂が歩行で引きずられることで、床材に傷が入ります。出入口へのフロアマットの設置により土砂の持ち込みと拡散を防ぎます。マットはこまめに除塵、交換してください。

毎日 日常清掃

- ダスタークロスや掃除機でチリや埃を除去した後に、固く絞ったモップなどで水拭きしてください。
- ヒールマークなどの落ちにくい汚れは、水または洗浄剤を含ませたモップやウエスなどで拭き取ってください。
- 状況に応じ自動床洗浄機などで洗浄を行ってください。

WF ワックスフリー
WAX FREE 単層タイプ

- 傷が目立つようになってきたら、自動床洗浄機で洗い磨きをしてください。目安は歩行量の多い場所で週1回から2週間に1回程度です。

WF ワックスフリー
WAX FREE 複層タイプ

- 光沢や汚れの状況に応じてワックスメンテナンスに切り替えてください。
- ワックスメンテナンスへの切り替え後は、一般的な長尺シートと同じメンテナンスとなります。

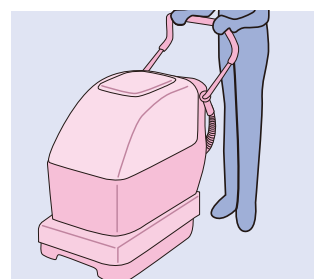
注意事項

- 床材やご使用用途・目的に応じた洗浄剤やワックス、剥離剤、パッドをお選びください。
また、洗浄剤やワックス、剥離剤は製造元が推奨する使用方法を必ずご確認ください。
- 床材とワックスとの密着性は商品によって異なります。各商品の推奨ワックスについては弊社営業担当者までお問い合わせください。
- ビニル床タイルの場合は目地から水、洗浄剤、ワックス、剥離剤がタイル裏面に入り込まないようにご注意ください。接着剤を無力化させ突き上げや反りなどの不具合、二重床の場合は配線やOA機材の不具合が発生する恐れがあります。モップに染み込ませる量を調整するなどご注意ください。

永久 ワックスフリー機能が再生する単層シート

機能再生

メガリット・グラニット・オデオンPUR・メディントーンは粒子のたいへん細かい素材を使用しているため、表面に凹凸が少なく汚れや薬品が入り込みにくくなっています。
使用中の摩耗により表面に凹凸が生じても、自動床洗浄機での洗浄やバフingによって表面を滑らかに整えることで、ワックスフリー機能が再生します。



初期
メンテナンス

ビニル床材の施工直後は、初期の汚れを防止することが大切です。床材施工後はキズがつかないように、必ず養生を行ってください。土足での通行を禁止し、接着剤が完全に乾燥・硬化するまで十分な養生期間を取った後に、**初期メンテナンス**を行います。

手 順

一般ビニル



- 1 接着剤が完全に硬化していることを確認してください。
- 2 ダスタークロスや掃除機などで床面を掃除し、チリや埃を除去してください。
- 3 接着剤やヒールマークなどの汚れは、床材の表面を傷つけないようにスクレイパーやハンドパッドで取り除き、水または洗剤を含ませたモップやウエスなどで拭きとってください。

一般ビニル



- 4 希釈した洗剤を床面にモップで塗布し、ポリッシャーで洗浄して汚れを取り除き、スキージーなどで汚水を迅速に回収・除去してください。洗剤で取れにくい汚れはアルコールなどで除去します。その後モップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。

※ビニル床タイルの場合は水や洗剤がタイル目地に入り込まないように注意してください。

- 5 乾燥後、樹脂ワックスを用いて仕上げを行います。この際、ビニル床タイルの場合は洗浄作業と同様、ワックスがタイル目地から浸入しないようにモップに染み込ませる量を調整するなど注意してください。塗布回数は歩行頻度やご使用用途により異なりますが、2～3回を推奨します。

※初期メンテナンスの際、洗浄不足や乾燥不足によりワックスをはじいてしまう等、密着不良を起こすことがあります。初期の洗浄をしっかりと行い、ビニル床材と密着性の良いワックスを選定することが大切です。

- 6 塗布が終わったら十分に乾燥させます。完全に乾燥するまで通行を禁止してください。

- 4 施設使用前にポリッシャー（磨き用パッド）で洗い磨きをしてください。その後モップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。

※洗い磨きは汚れを落とすだけでなく床材表面の平滑性が増し、汚れにくくしますので、日常メンテナンスが容易になります。

- 4 希釈した洗剤を床面にモップで塗布し、ポリッシャーで洗浄して汚れを取り除き、スキージーなどで汚水を迅速に回収・除去してください。洗剤で取れにくい汚れはアルコールなどで除去します。その後モップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。

※ビニル床タイルの場合は水や洗剤がタイル目地に入り込まないように注意してください。

※洗浄で使用する水や洗剤の量が少ないと、床面に不具合を発生させる恐れがありますのでご注意ください。

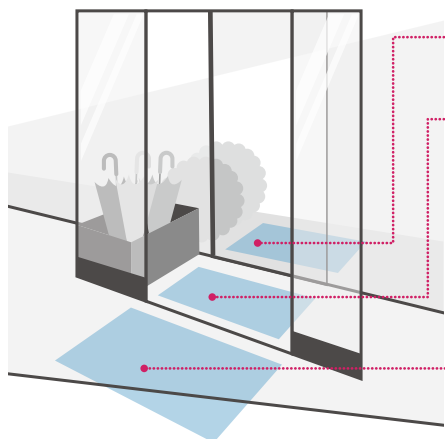
予防清掃

日常
メンテナンス

日常メンテナンスのポイントは、「**汚れる前に予防清掃をする**」ことです。施設内の汚れの80%は外から運び込まれます。靴底に付着した泥・砂などが施設内に持ち込まれ、汚れが拡散します。このため、施設まわりの日常清掃も大切です。エントランスには以下の**3段階のマット設置が汚れの持ち込み防止に効果を発揮**します。

手 順

一般ビニル



- 1 まず玄関の外に雨・風耐用型のマットを置き、外からの泥・砂などをふり落としします。

- 2 次に風除室内に雨の日の水分まで吸着するマットを敷きます。

- 3 最後に施設内に汚れ・埃・水分吸着用マットを敷きます。

来訪者が施設内に入るまでに、外からの泥・砂を自然に歩いて落とすには、**約6mの除塵スペース**が必要であると言われています。なるべく広範囲にわたってフロアマットを設置することが、施設内部への汚れの持ち込みを防ぎます。

※マットが汚れて泥・砂が飽和状態のまま放置すると逆にマットの汚れが内部に入ってきますので、マットは常に清掃してください。毎日のバキュームと月1回の水洗いをすすめます。

日常
メンテナンス

日常清掃

日常清掃では、**汚れがひどくなる前に汚れの原因を取り除く**ことが長期にわたる美観維持につながります。

手 順

一般ビニル



- ① ダスタークロスや掃除機でチリや埃を除去した後に、固く絞ったモップなどで水拭きしてください。雨天時はエントランス付近を重点的に行ってください。
- ② 落ちにくい汚れは、水または洗剤を含ませたモップやウエスなどで拭き取ってください。洗剤でも落ちない汚れは、アルコールなどで除去してください。また洗剤やアルコールを使用した場合は、必ず水拭きをしてください。
- ③ 状況に応じ希釈した洗剤を床面にモップで塗布し、ポリッシャーで洗浄して汚れを取り除き、スキージーなどで汚水を迅速に回収・除去してください。その後モップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去し乾燥させてください。

※広い面積での作業には自動床洗浄機を使用いただくと効率的です。

※ビニル床タイルの場合は水や洗剤がタイル目地に入り込まないように注意してください。



※傷が目立つようになってきたら、自動床洗浄機で洗い磨きをしてください。目安は歩行量の多い場所で週1回から2週間に1回程度です。洗い磨きが終わったらモップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。

※洗い磨きは汚れを落とすだけでなく床材表面の平滑性が増し、汚れにくくします。



※光沢や汚れの状況に応じてワックスメンテナンスに切り替えてください。

※ワックスメンテナンスへの切り替え後は、一般的なビニル系床材と同じメンテナンスとなります。

※ポリッシャーや自動床洗浄機が入らないコーナー部や壁際は、水または洗剤をつけ固く絞ったモップで清掃してください。使用後は洗剤をモップなどで水拭きをし、汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。

※洗浄で使用する水や洗剤の量が少ないと、床面に不具合を発生させる恐れがありますのでご注意ください。

※床材の状況に応じたパッドをお選びください。

定期
メンテナンス

日常メンテナンスでは除去できない汚れが堆積してきたら、**定期メンテナンス**を行ってください。

手 順

一般ビニル

- ① ダスタークロスや掃除機などで床面を掃除し、チリや埃を除去してください。
- ② 希釈した洗剤を床面にモップで塗布し、ポリッシャーで洗浄して汚れを取り除き、スキージーなどで汚水を迅速に回収・除去してください。更にきれいな水で床面を水拭きし乾燥させます。この際にビニル床タイルの場合は水や洗剤がタイル目地に入り込まないように注意してください。
- ③ むらなく均一にワックスを床面に塗布します。この際にビニル床タイルの場合は洗浄作業と同様、ワックスがタイル目地から浸入しないようにモップに染み込ませる量を調整するなど注意してください。
- ④ 乾燥したら2回目の塗布を行います。摩耗や歩行量の多い部分は同様に乾燥させた後に3回目の塗布を行います。
- ⑤ 塗布が終わったら十分に乾燥させます。完全に乾燥するまで通行を禁止してください。

特別
メンテナンス

汚れがワックスの内部に及んだり、塗膜が黄変や粉化した場合に**ワックスの剥離と再塗布作業**を行います。

手 順

一般ビニル

- ① ダスタークロスや掃除機などで床面を掃除し、チリや埃を除去してください。
- ② ワックスの面積に応じてモップで剥離剤をムラなく塗布し、剥離剤が十分浸透してからポリッシャーなどで完全に剥離させます。この際にビニル床タイルの場合は剥離剤がタイル目地から浸入しないように、モップに染み込ませる量を調整するなど注意してください。
- ③ 汚水はスキージーなどで回収・除去してください。床面が乾かないうちにきれいな水で水拭きし、乾燥させます。
- ④ 床面の乾燥を確認した後に、ワックスの塗布を行います。以下作業は定期メンテナンス③～⑤と同じです。

注意事項

床材やご使用用途・目的に応じた洗剤やワックス、剥離剤、パッドをお選びください。また洗剤やワックス、剥離剤は製造元が推奨する使用方法を必ずご確認ください。

床材とワックスとの密着性は商品によって異なります。各商品の推奨ワックスについては弊社営業担当者までお問い合わせください。

ビニル床タイルの場合は目地から水、洗剤、ワックス、剥離剤がタイル裏面に入り込まないようにご注意ください。接着剤を無力化させ突き上げや反りなどの不具合、二重床の場合は配線やOA機材の不具合が発生する恐れがあります。モップに染み込ませる量を調整するなどご注意ください。

ノンスキッドメンテナンスガイド

日常 メンテナンス

予防清掃

建物内の汚れの80%は外から運び込まれます。靴底に付着した泥・砂などが建物内に持ち込まれ、それが建物内の床材にキズを付け、汚れも拡散します。

- 建物内の美観を維持するためには、エントランスやエレベーター前等に防塵マットを敷き、外部から汚れが持ち込まれないように配慮してください。

日常清掃

日常清掃のポイントは『汚れる前に予防清掃をする』ことです。汚れがひどくなる前に汚れの原因を取り除くことで、長い期間の美観維持につながります。

- ①防塵マットに入り込んだ砂やチリ、埃などを掃除機にて回収してください。
- ②掃除機やほうきなどで床面を掃除し、砂やチリ、埃などを除去してください。
- ③指定倍率に薄めた洗浄剤を床面にモップなどで塗布し、デッキブラシで擦り、水を流します。しつこい汚れにはスカットクリーナー(BB-477)を使用してください。その後モップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗浄剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。

定期 メンテナンス

日常のメンテナンスでは除去できない汚れが堆積したら、定期メンテナンスを行ってください。

- ①掃除機やほうきなどで床面を掃除し、砂やチリ、埃などを除去してください。
- ②指定倍率に薄めた洗浄剤を床面にモップなどで塗布し、日常清掃で取り除ききれない汚れをポリッシャーで洗浄して取り除き、スキージーなどで汚水を迅速に回収・除去してください。その後モップなどで水拭きし、汚れを含んだ洗浄剤成分を完全に除去し、乾燥させてください。

※屋外や半屋外でご使用の際は、ワックスの塗布はお避けください。但し、必要に応じてワックスメンテナンスを行う場合、ワックスを塗布する前に凹凸部に溜まったゴミ・埃を除去してください。また凹部にワックスが留まると黒ずんで汚れて見えることがあるため、ワックスを通常の床材より控えめに丹念に薄く塗布してください。

※使用年数が経過するにつれ、水垢が蓄積されることがありますので、定期的に水垢除去の洗浄を行うことをおすすめします。

【注意事項】

床材やご使用用途・目的に応じた洗浄剤やパッドをお選びください。その際、洗浄剤は製造元が推奨する使用方法を必ずご確認の上、ご使用ください。

ノンスキッド・エアコン排水目地(中空タイプ)メンテナンスガイド

1.水圧によって砂や埃などを取り除く

- 付近の水道蛇口よりホースを繋げ、ホース受け口にホースを差し込み、水圧をかけるようにして水を流し込んで砂や埃などを押出してください。

※水圧が強すぎたり、水量が多すぎると、ホース受けより水が溢れだしますのでご注意ください。
(溢れ限界水量は750ml/分となります。※勾配1/100、スロープの長さ1,500mmの場合)

2.風圧によって砂や埃などを取り除く

- エアリールが使用可能な場合、ホース受け口よりエアーを流し込み、砂や埃などを押出してください。

3.開口部付近の砂や埃などを取り除く

- ノンスキッド・エアコン排水目地(中空タイプ)の出口部分に砂や埃等がたまった場合は、細い針金等を使用して、掻き出すように砂や埃などを取り除いてください。

※硬いもので砂や埃などを掻き出す場合、製品を傷つけないようにご注意ください。

4.洗浄剤を使用する(水垢・しつこい汚れ)

- 水垢やしつこい汚れ(上記1~3の方法ではとれない場合)は洗浄剤の使用をおすすめします。

洗浄剤の一例：ジェルタイプのパイプクリーナー(アルカリ性)

成分：次亜塩素酸塩、水酸化ナトリウム(5%)、界面活性剤(アルキリアミンオキシド)

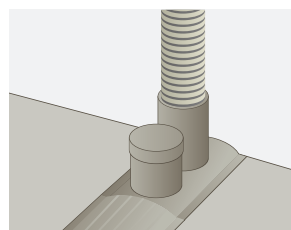
【洗浄剤使用方法】

- ①洗浄剤100ml~300mlをホース受けよりエアコン排水目地(中空タイプ)へ流し込む(洗浄剤ボトル裏面の使用方法を参照してください)。
- ②30分~60分放置し、その後水をホース受けよりエアコン排水目地(中空タイプ)へ流し込み、洗浄剤を洗い流す。

【洗浄結果】

水や風圧では落とすきれない水垢や汚れに効果的です。

※効果は汚れの状態によって異なります。



ルームプラス・ココフロア メンテナンスガイド

繊維状のビニルを織り込んだ独特な構造の床材です。
長く美しくお使い頂くために定期的なメンテナンスをおすすめいたします。

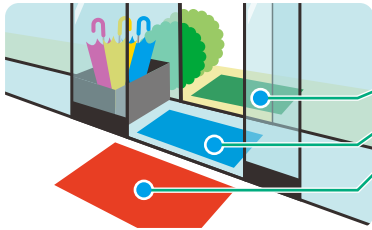
予防

メンテナンス

施設内の汚れの80%は外から運び込まれます。泥・砂・コンクリート粉・煤煙・アスファルトなどが靴底に付着し、それが施設内の床材に転移して汚れが拡散します。このため、施設の中だけでなく駐車場・連絡通路・外構回り歩道の清掃をこまめに実施する日常清掃が大切です。



3段階のマット設置が汚れの防止に効果を発揮



①まず玄関の外に雨・風耐用品のマットを置き、外からの泥・砂などをふり落としします。

②次に風除室内に雨の日の水分まで吸着するマットを敷きます。

③最後に施設内に汚れ・埃・水分吸着用マットを敷きます。

外から施設内まで来訪者が自然に歩いて泥・砂を落とすには、約6mの除塵スペースが必要であると言われています。なるべく広範囲にわたってマットを設置することが施設内部の床材の汚れを防ぎます。

※マットが汚れて泥・砂が飽和状態のまま放置すると逆にマットの汚れが内部に入ってきますので、マットは常に清掃しておきます。毎日のバキュームと月1回の水洗いをおすすめします。
※大きなマットは重量があり、めくれにくいですが、バリアフリーを推進するためには初期床工事仕上げの時に、マットの厚み分床の仕上高を低くする必要があります。

初期

メンテナンス(施工完了後)

土足での通行を禁止し、床面を保護して接着剤が完全に乾燥・硬化するまで十分な養生期間を取り、初回のメンテナンスを行います。



初期メンテナンス手順

- ①乾式ダスターモップや掃除機を使用して埃やゴミを除去し、床面をきれいに掃除してください。
- ②床面に付着したヒールマークや接着剤などの汚れは、床材の表面を傷つけないようにナイロンブラシやハンドパッドで取り除き、水または洗剤を含ませたウエスなどで拭き取ってください。洗剤で取れにくい汚れはアルコールなどで除去し、その後モップなどで水拭きします。汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去して乾燥させてください(洗剤成分が残っていると汚れが付着しやすくなります)。
- ③温水(40℃程度)を使用し、自動床洗浄機で洗浄してください。柔らかいパッド、またはブラシを低圧で使用し、洗剤を使用する場合はアルカリ洗剤を希釈してください。(ココフロアは中性洗剤を使用してください。)凹凸に入り込んだ汚水は湿式掃除機(バキューム)で完全に回収し、水拭きして乾燥させてください。
- ④洗浄後、必要に応じてワックスを塗布します。**(ココフロアはワックスを使用できません)**
事前に床面が乾燥しているかを確認してから作業してください。ワックスが乾くまでは通行を禁止してください。

※清掃機器は床材の目の方向に沿ってご使用ください。 ※自動床洗浄機が入らないコーナー部や壁際はモップやハンドパッドで清掃してください。
※自動床洗浄機の水、洗剤の量が少ないと洗浄ムラや床材の不具合が発生する恐れがありますのでご注意ください。 ※洗剤の希釈は製造元が推奨する希釈率をご確認ください。

日常

メンテナンス

日常メンテナンスのポイントは、「汚れる前に予防清掃をする」ことです。
床面にこびり付いた汚れを取り除くには大変な時間と労力を要し、床面もきれいになりません。
汚れがひどくなる前に汚れの原因を取り除くことが長期にわたる美観維持につながります。



日常メンテナンス手順

- ①乾式ダスターモップや掃除機で埃やゴミを取り除いてください。雨の日はエントランス付近を重点的に、固く絞ったモップでぬれている部分を拭き取ります。
- ②ヒールマークなどの落ちにくい汚れは、水または洗剤を使用し、ナイロンブラシやウエスなどで取り除いてください。洗剤でも落ちない汚れは、アルコールなどで除去してください。また洗剤やアルコールを使用した場合は、必ず水拭きをしてください。
- ③歩行頻度や汚れの状況に応じて、温水(40℃程度)または洗剤を使用し、自動床洗浄機で洗浄してください。柔らかいパッド、またはブラシを低圧で使用し、洗剤を使用する場合はアルカリ洗剤を希釈してください。(ココフロアは中性洗剤を使用してください。)凹凸に入り込んだ汚水は湿式掃除機(バキューム)で完全に回収し、水拭きして乾燥させてください。
- ④洗浄後、必要に応じてワックスを塗布します。**(ココフロアはワックスを使用できません)**
事前に床面が乾燥しているかを確認してから作業してください。ワックスが乾くまでは通行を禁止してください。歩行頻度や汚れの状況に応じて、1ヶ月に1回程度の表面洗浄と、6ヶ月に1回程度のワックス塗布を定期的実施してください。汚れが取りきれなくなってきたらワックスを剥離し、十分に洗浄のうえワックスを再塗布してください。

※自動床洗浄機が入らないコーナー部や壁際はモップやハンドパッドで清掃してください。 ※ドライバフィングやバニッシングを行うと、床面の凹凸部が局部的に削られて不具合が生ずる場合があります。
※洗剤の希釈は製造元が推奨する希釈率をご確認ください。

カーペットタイル メンテナンスガイド

長期間美しく維持管理していくためのメンテナンス方法をご紹介します。

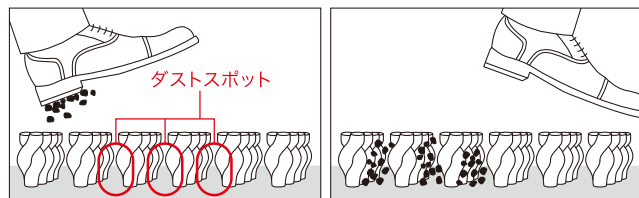
■予防メンテナンス

出入りにマットの設置(マットメンテナンス)

- 商業(来客)施設の場合、施設内の汚れの80%は外から運び込まれます。
- 泥・砂・コンクリート粉・煤煙・アスファルトなどがお客様の靴底に付着し施設内のカーペットタイルでぬぐい去られます。外からの汚れを食い止めるのが、玄関マットです。
- まずは、玄関の外に、雨・風耐用型のマットを置きます。次に、風除室内に、雨の日の水分まで吸着するタイプのマットもしくはダストコントロールカーペットタイルを敷きつめます。なるべく広範囲に渡るマット類の使用が、施設内部の汚れを防ぎます。この玄関部のマット類が汚れて、泥・砂が飽和状態のまま放置すると効果は半減し、逆にマット類の汚れが内部に入ってきます。マット類が泥・砂を常に吸着しやすいように、常に、マット部も清掃しておきます。

■カーペットタイルの汚れの原因

カーペットタイルの汚れの80%は外部から持ち込まれます。お客様が自然に歩いて泥・砂を落とすには、約6mの除塵スペースが必要であると言われています。



※ダストスポット:パイルの間にある汚れを蓄積する場所

1.日常メンテナンス

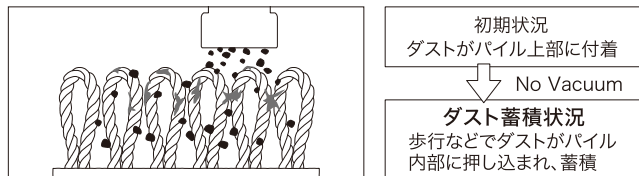
衛生維持を目的とします。(目安:毎日)

【表-A】

日常メンテナンス 汚れの分類例		
毎日のバキュームでドライソイルは除去します。		
1	砂、粘土	30~40%
2	酸化物、炭酸化合物	6~24%
3	炭素、カーボン	0~3%
4	髪の毛、動物の毛	10~12%
5	繊維、植物物質(綿ほこり)	10~12%

※【表A・B・C】の1~5 が乾いた粒子で通常80%~90%を占めます。その他 6・7・8 の割合は少ないものの、著しく美観を損ねる原因となり、より高度なクリーニング技法が必要となります。

日常メンテナンスの重要性



掃除機バキューム

汚れの80%は乾いた粒子の汚れです。毎日のアップライトバキュームで除去。(出入り口付近は縦、横と2回かけてください)



シミ取り(早期発見→対処が重要です)

シミを見つけたら、カーペット専用洗剤を霧吹き等で散布し乾いたウェスで吸着させてください。

2.中間メンテナンス

衛生環境の改善を目的とします。(目安:3ヶ月~半年/回)

【表-B】

中間メンテナンス 汚れの分類例		
少量の洗剤で油汚れやドライソイルを除去します。		
1	砂、粘土	30~40%
2	酸化物、炭酸化合物	6~24%
3	炭素、カーボン	0~3%
4	髪の毛、動物の毛	10~12%
5	繊維、植物物質(綿ほこり)	10~12%
6	湿気	2~4%
7	ガム、樹脂	6~10%

※【表A・B・C】の1~5 が乾いた粒子で通常80%~90%を占めます。その他 6・7・8 の割合は少ないものの、著しく美観を損ねる原因となり、より高度なクリーニング技法が必要となります。

クリスタルクリーニングの実施例



バキューム

特殊洗剤散布

ロータリー

ブラシ洗浄

汚れを吸着した

洗剤を回収

- 中間メンテナンス工法/日常メンテナンスでは落ちない汚れを少量の特殊洗剤やスチームで除去します。

- ・パウダークリーニング ・ボンネットクリーニング
- ・ドライフォームクリーニング

※状況によりメンテナンスの頻度は異なりますので、必ず専門業者へご確認ください。

3.定期メンテナンス

蓄積してしまった汚れの除去を目的とします。(目安:半年~1年/回)

【表-C】

定期メンテナンス 汚れの分類例		
カーペット専用洗剤と水または温水で除去します。		
1	砂、粘土	30~40%
2	酸化物、炭酸化合物	6~24%
3	炭素、カーボン	0~3%
4	髪の毛、動物の毛	10~12%
5	繊維、植物物質(綿ほこり)	10~12%
6	湿気	2~4%
7	ガム、樹脂	6~10%
8	タール、オイル、油脂	3~8%
9	その他、未確定物質	1~3%

※【表A・B・C】の1~5 が乾いた粒子で通常80%~90%を占めます。その他 6・7・8 の割合は少ないものの、著しく美観を損ねる原因となり、より高度なクリーニング技法が必要となります。

- 定期メンテナンス工法/カーペット専用洗剤で洗浄後にリンスして復元、蘇らせる工法が特徴。

- ・ロータリークリーニング ・スチームクリーニング
- ・エクストラクション

※衛生消毒薬品は必ず目立たない所でサンプリングをしてください。

※状況によりメンテナンスの頻度は異なりますので、必ず専門業者へご確認ください。



洗剤を出しながら
洗浄



水または温水でリンス
→乾燥

※詳しいメンテナンス方法は、カーペットタイルメンテナンスの知識と経験を持つライセンスに合格したクリーニングテクニシャンにご相談してください。

【日本カーペットクリーナーズアカデミー JCCA】
www.japan-carpet.com

フロテックス メンテナンスガイド

高密度にナイロンパイルを植毛したフロテックスは、耐久性・防水性・速乾性に優れる商品です。日常メンテナンスと定期メンテナンスを実施することで長期にわたって美観を維持することが可能です。

日常
メンテナンス

予防清掃

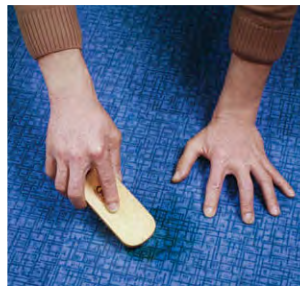
- 施設内の汚れの80%は外から運び込まれます。靴底に付着した泥・砂などが施設内に持ち込まれ、汚れが拡散します。このため、施設まわりの日常清掃も大切です。エントランスには以下の3段階のマット設置が汚れの持ち込み防止に効果を発揮します。
 - ①まずは、玄関の外に、雨・風耐用型のマットを置きます。
 - ②次に風除室内に雨の日の水分まで吸着するマットもしくはダストコントロールカーペットタイルを敷きつめます。
 - ③最後に施設内に汚れ・埃・水分吸着用マットを敷きます。
- ※マットが汚れて泥・砂が飽和状態のまま放置すると逆にマットの汚れが内部に入ってきますので、マットは常に清掃してください。毎日のバキューミングと月1回の水洗いをおすすめします。

日常清掃

- 日常清掃のポイントは、「汚れる前に予防清掃をする」ことです。汚れがひどくなる前に汚れの原因を取り除くことが長期にわたる美観維持につながります。
 - ①アップライトバキュームで埃やゴミを取り除いてください。
 - ②汚れや染みはきれいな水もしくは温水(40℃)を使用して取り除いてください。水や温水で落ちない場合は、希釈した中性洗剤を使用してください。
 - ③水分や洗剤を完全に除去し乾燥させてください。



A.まず最初にスクレイパーなどで出来るだけ汚れを掻き集めて取り除いてください。



B.水(必要に応じて少量の洗剤)を用いて、ブラシなどで汚れた部分を十分に擦り、汚水を雑巾などで吸い取ってください。



C.最後に綺麗な水(またはお湯)を用いてリンスしながら、スクレイパーなどで汚水を集めて雑巾で吸い取ってください。必要に応じて数回繰り返してください。

定期
メンテナンス

- 日常メンテナンスで除去できない汚れが堆積してきたら、定期メンテナンスを行ってください。
 - ①アップライトバキュームで埃やゴミを取り除いてください。
 - ②希釈した洗浄剤を噴霧器等で塗布し、ポリッシャーで洗浄して汚れを取り除いてください。
 - ③残った汚水、洗浄液はウエットバキュームやエクストラクターで回収して乾燥させてください。

※P.457のカーペットタイルメンテナンスガイドも合わせてご参照ください。